

No. 008

パナマ国営教育テレビ放送計画 総合報告書 (PART I)

1984年8月

国際協力事業団

ARY

海七
J R
84-105

パナマ国営教育テレビ放送計画
総合報告書
(PART I)

JICA LIBRARY



1066778[0]

17882

1984年8月

国際協力事業団

国際協力事業団

17882

「パナマ国営教育テレビ計画」総合報告書(PART 1)

目 次

1	プロジェクトの背景と派遣の経緯	1
(1)	プロジェクトの背景	1
(2)	センター協力への転換	1
(3)	プロジェクト方式による専門家派遣	2
2	センター協力による機材供与	4
(1)	送信機据付け工事	4
(2)	スタジオ機器据付け工事	4
(3)	その他の機材	6
3	要員訓練	7
(1)	スタジオ番組制作指導	7
(2)	送信技術指導	8
(3)	局外番組制作指導	8
(4)	日本紹介番組の制作と国際理解の促進	9
(5)	特別訓練計画	11
4	カウンターパートについて	13
5	プロジェクト推進上の問題点	14
(1)	プロジェクト期間と訓練方法	14
(2)	要員と資金の確保	14
(3)	番組制作上の問題点	15
(4)	技術上の問題点	16
6	結 び	19

「パナマ国営教育テレビ計画」総合報告書

チームリーダー 栗屋 淳

〔派遣期間〕

56年12月21日～58年12月20日

1 プロジェクトの背景と派遣の経緯

(1) プロジェクトの背景

パナマの教育テレビ活動に対する日本政府援助のかゝり合いは、1973年3月派遣された調査団の報告にもとづき、同年8月教育テレビ番組のプロデューサー（宮崎 啓 現チーム・リーダー）を派遣したことに始まる。

当時はパナマ大学の視聴覚研究活動の一環として教育テレビ番組を制作し、これを既存の商業テレビ局（CANAL 2、CANAL 4）から放映させるプロダクション・センターで、大学内では閉回路テレビで放送していた。

その後も同テレビ局には政府ベースでNHKから教育テレビ番組のプロデューサー（高須 賀清、清水源三）が派遣され、教育テレビ番組制作手法の基本を指導してきたが、パナマ大学歯学部内にある24㎡の小スタジオ1室では制作活動にも限界があり、本格的な教育テレビ局として発展することは望み得ない状態であった。

このためパナマ側ではスタジオを含む制作設備の整備を計画すると同時に、商業放送に依存する体制からの脱脚を検討し始めた。

これら制作、送信にかゝわる技術的な諸問題を整理、検討するため、1979年2月～8月、テレビ技術専門家（伊藤 晃二）を派遣、同氏の勧告に基づき、1980年3月から長期専門家（小松 靖夫）がパナマに在勤し、テレビ技術全般の諮問に応える体制をとった。

(2) センター協力への転換

たまたまこの時期、1980年3月、日本を訪問したパナマのロヨ大統領は日本政府に対し教育テレビ局への援助を要請、時の大平首相は「人造り」に役立つ教育テレビ活動への協力を快諾した。これを契機として従来の専門家派遣による協力から機材供与、カウンターパート研修を含むプロジェクト協力へと発展することとなった。

1980年6月、日本政府はパナマ国営教育テレビ局の援助にかゝわる事前調査団を派遣、さらに翌1981年1月～2月には実施協議チームを派遣することとなった。

実施協議チームは専門家派遣計画、要員訓練計画、機材供与計画等について国営教育テレビ局長その他関係者と協議し、1981年2月11日合意文書（R/D）に調印した。

(3) プロジェクト方式による専門家派遣

この合意文書に基づき、単独派遣ベースの清水源三の任期満了に伴ない、同年10月5日相沢雅春（教育テレビ番組制作専門家）をプロジェクト方式初の専門家として派遣、ひきつづき12月4日緒方惟孝（テレビ送信技術専門家）を、また12月21日粟屋淳（チーム・リーダー）を派遣した。

なお、スタジオ技術専門家については、単独派遣の小松靖夫の任期満了をまって、翌82年3月20日富森茂が派遣され、この時点で全員プロジェクト方式による専門家での指導体制が整った。

パナママ国営教育テレビ局に対する専門家派遣実績

	1973	1974	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984
単独専門家派遣	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(番組制作)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(番組制作)</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(番組制作)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(テレビ技術)</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(番組制作)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(テレビ技術)</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(番組制作)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(テレビ技術)</div> </div>									
プロジェクト調査団	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(番組制作)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(テレビ技術)</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(番組制作)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(テレビ技術)</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(番組制作)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(テレビ技術)</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(番組制作)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(テレビ技術)</div> </div>									
プロジェクト協力専門家派遣	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(番組制作)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(テレビ技術)</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(番組制作)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(テレビ技術)</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(番組制作)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(テレビ技術)</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(番組制作)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(テレビ技術)</div> </div>									
据付専門家	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(番組制作)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(テレビ技術)</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(番組制作)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(テレビ技術)</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(番組制作)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(テレビ技術)</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(番組制作)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(テレビ技術)</div> </div>									

2 センター協力による機材供与

(1) 送信機据付け工事

プロジェクト方式による機材供与は1981年12月24日クリスマス前夜開局を前提として準備が進められ、5kWのテレビ送信機を中心とする第1陣の供与機材が同年10月16日発送された。

テレビ送信技術専門家緒方惟孝は機材到着の時期に合わせて12月4日派遣され、着任後直ちにCarrasco技師長、NEC据付工事専門家(幸島敏浩、吉田義美)と協力して、送信機増力工事に参画した。

しかし、この年は全くの異常気象で、12月に入っても雨季が明けず、豪雨の合間を縫って行ったセロ・オスクロ送信所までの機材搬送は難行をきわめた。

工事は結局、目標としたクリスマス開局には間に合わず、増力工事完了は翌年の1月15日をまたねばならなかったが、発射された電波はきわめて良好であった。

これまでパナマ市に限定されていた電波はほぼパナマ州全体に拡大され、また映像品位も著しく向上して注目を集めた。

送信機の据付け工事にたずさわることは、テレビジョン技術者にとってはきわめて貴重な経験であるが、緒方専門家はこの時期、工事の過程の中で、CANAL ONCEの技術者に対し、送信機の構造、送信理論を研修し、また工事完了後の試験電波発射期間中も随時(週1~2回)送信機の構造、定期保守の要領を指導した。

(2) スタジオ機器据付け工事

小職の着任当時(81年12月下旬)、パナマ側の責任範囲であるスタジオ工事はいっこうに進捗していなかった。

度重なる豪雨のためスタジオの雨漏り、壁面はじめ外庭に面するドアからの浸水によって、 Horizont 溝も工事のあとの木片やプラスチック等が浮いたまゝで、機器据付けの準備工事以前の状態であった。テレビ局においてスタジオが出来上らないことには、要員訓練の教室がないわけで、センター協力計画による技術移転も進展しない。

このため、CANAL ONCEの工事に責任を持つパナマ大学当局(学長、副学長)に陳情を繰返すとともに、同大学建築部と日本人専門家との間に定例的な打合せ会を持って、機器据付けのための準備工事を促進することとなった。

パナマ側の予算年度は1月~12月で、1982年度当初、工事のための予算(260,000ドル)はついているものの、事実上執行出来ない仕組みになっており、据付け工事の最も基本となる大容量のトランスが米ウェスティング・ハウス社に発注されたのはその年の4月に入ってからであった。パナマ側の責任範囲であるスタジオ機器据付け準備のための主な工事

は凡そ次のとおりであった。

- ・大容量トランス取替え工事（30kVA→500kVA）
- ・空調工事（スタジオ系）
- ・スタジオ天井の雨漏り防止工事
- ・キャッツウォーク架設
- ・照明用綱元支柱の取付け
- ・副調室、テレシネ室の覗き窓（庶音二重ガラス）
- ・スタジオ防音扉
- ・スタジオ床工事
- ・ホリゾント架設
- ・リハーサル室整備
- ・グリッドパイプの追加工事
- ・大道具制作室建設
- ・駐車場整備（含OB Van 用屋根、扉つき車庫）

日本政府からのスタジオ用機材は続々と発送されたが、パナマ側では受入れ、据付けの準備が殆んど出来ていなかったため、とりあえずパナマ政府の倉庫を確保し、こゝに保管することとした。

一方、専門家側としては、上記準備工事のうち、スタジオ機器据付けに直接関係のある工事を優先的にとりすゝめるよう、大学建築部に強く要請、工事遂行上の問題点や工事資材の材質、仕様等についても精力的に打合せを重ねた。そして疑問の点については東京のスタジオ建築専門家に照会するなど、放送局建築に経験のないパナマ側請負業者に出来るだけ親切な指針を与えるよう努力した。

82年9月下旬、米国ウェスティング・ハウス社から大容量のトランスがやっと到着した。また、グリッド・パイプの追加、綱元支柱の工事もやっと緒についたので、日本から据付け、調整の専門家を招く計画を作成し、これを大学側に示して逆にパナマ側の準備工事を促進させる方策をとった。

日本からの工事専門家は10月25日から1月6日まで延べ7名（NEC 桜井雅樹、宮内和男、藤原勝彦、木村集英、和喜田博、RDS 竹田豊、伊藤進）が1ヶ月半～2ヶ月に亘って波状的にパナマを訪れ、カメラ、主調卓、副調、テレシネ装置等のスタジオ電子機器、照明機器の取付け、STL施設の設置等を手順よく行ない、日本側の責任範囲にある工事は83年1月5日完了した。

これによりスタジオ用の供与機器が機能するようになり、新スタジオを利用しての番組制作がいちおう可能な状態となった。

いちおうというのは、スタジオの床工事、キャッツウォーク、防音扉等まだ未完成部分が残

されており、新スタジオが完全に機能するにはさらに8ヶ月を要したからである。事実新スタジオが付帯工事も併せて完了し、日本大使を招いて正式にスタジオ開所式の式典を行なったのは、小畷の任期満了直前の1983年12月15日であった。

(3) その他の機材

ア. EFP Van

この他R/Dに基づく機材供与として、1982年9月16日EFP Vanが発送され、翌月CANAL ONCEの有力な取材用機器として戦力に加った。

機動性と、少ない要員で番組制作できるメリットから、ニュース、ドキュメンタリー、インサート用のインタビュー等に広く活用されている。

イ. ジープ(トヨタ・ランドクルーザー 2台)

セロ・オスクーロ送信所へのアクセス道路は急坂悪路のうえ、いまだ完全に舗装されていない。CANAL ONCE所有のソビエト製ジープ(LADA、NIVA-1600)はガソリン漏れ、ブレーキ故障、運転席の扉故障等が相次ぎ、危険なばかりか、緊急必要な場合も送信所へ出動できず、緒方専門家及び送信技術の訓練を受ける職員の苦労が続いた。

このため57年度予算でジープの緊急手配方をJICAに要請し、1983年5月トヨタ・ランドクルーザー(2台)が配備された。

これによりセロ・オスクーロ送信所における定期保守指導はもちろん緊急時の事故修復等の業務遂行は大いに改善された。

ウ. OB Van(中継車)

1981年のR/Dで約束された供与機材は小型中継車(OB Van)を除いてすべて供与を完了し、要員訓練の体制は整うこととなる。

なお、OB Vanは58年度予算で既に発注、製作を終っており、84年4月末現地に到着することとなっている。

3 要員訓練

このプロジェクトの目的は1986年2月10日までの協力期間中にCANAL ONCEの番組制作要員、技術要員を訓練することにあった。

しかしながら、CANAL ONCEでは少数の現業要員(30名)で毎日(月～金)5時間の放送を実施しており、従って一般の訓練センターのように、現業業務から完全に外して、教室でカリキュラムに従った研修に専念するわけにはゆかない実情にあった。

このため、われわれ専門家チームはON-THE-JOBトレーニングを主体とし、このほか可能な限り作業時間との調整をとりつゝ理論を座講の形で教えるよう工夫した。

(1) スタジオ番組制作指導

新スタジオが稼動するまでは、パナマ大学歯学部内の旧スタジオで制作活動を指導した。

このスタジオは24㎡の大きさで、カメラを動かす余地がほとんどなく、トーク、対談、人形劇程度の番組制作に限定されている。

1983年始め、新スタジオに機器が据付けられてからも、まだ床工事が未完成で、カメラワークを駆使する番組の制作は不可能であったが、随時テーマを選んで「デモンストレーション番組」の制作を中心に指導することとした。

指導はスタジオワーク以前に、次の事項について解説、実習を行った。

- ・テーマの発掘、選定
- ・番組の構成と演出の方式
- ・出演者の選定と出演交渉のすゝめ方
- ・台本の作成とカメラ割り
- ・必要なセット、小道具
- ・資料収集(インサート用図表、イラスト、写真、フィルムを含む)

また、スタジオにおける番組収録後は、

- ・編集技法
- ・タイトル作成

等を指導した。

これと併行して、番組制作技術を担当する富森専門家は、技術部員、技術運用部員に対し、必要な機器(マイクロフォン、カメラ、カメラケーブル、照明関係機器等)の員数、機能の点検、設営方法を解説、また番組の収録中はカメラ操作、照明操作、音声、映像の調整技術、フィルム、VTRのインサート、VTR収録業務等オペレーション全般を指導した。

プロデューサーと技術要員との総合打合せ、リハーサル、本番という繰返し作業の中で、機器の操作に習熟させるよう努力した。

また、本番組収録後の機器の員数点検、機能確認、徹収格納についても、機器保全の観点から要領よく実施できるよう指導した。

なお、完成した番組はプロデューサー、技術要員全体で反省会を開いて、相沢専門家、富森専門家が中心となって、制作過程における注意事項、効果的な機器操作を解説することとした。

これらデモンストレーション番組の研修は原則として制作部員、アナウンサー、技術部、技術運用部員全員を対象とし、編成、資料、広報を担当する職員も随時参加した。

(2) 送信技術指導

82年1月中旬送信機据付け工事が完了したあと、緒方専門家は週1～2回送信機の構造、回路、機能を解説、定期点検、保守の要領を技術要員に訓練した。

送信関係は1983年4月までは技術部長のAlejandro Carrasco 技師がカウンターパートの役割を果たしていたが、同氏がCANAL ONCEを辞してからはJose Lasso de la Vega (技術部長代行)が当たった。

このほか、送信技術に関する訓練を受けた職員はAlonso Plicet, Raul Sanjur, Sixto Madariaga, Harmodio Cedeñoである。

(3) 局外番組制作指導

局外制作の指導については、相沢専門家、富森専門家のほかに緒方専門家も加って、ロケーションの条件によって必要とする機器の選定、事前点検、ロケ現場での設営、操作、また収録後の編集作業も併せて実施した。

とくにナマ放送の場合は、現場の下見作業、機器設営方法の検討、マイクロ回線構成と中継地点の選定の方法も訓練した。対象とした職員は、大規模中継(録画)の場合は技術部、技術運用部のほぼ全員が参加した。

在任期間中に実施した局外制作番組の代表的な例は、83年3月5日の「ローマ法皇パナマ訪問」の中継であった。

パナマでは重要事件の報道は"CADENA NACIONAL"とって各局(または指定された特定の局)が代表取材し、これを他のテレビ局に分配することが法律(1980年10月17日法律第36号)によって定められている。

CANAL ONCEは当日夜、法皇の大統領官邸訪問とカテドラルにおける式典(Liturgia)のナマ中継を担当することとなった。このため約1ヶ月前から中継のための回線構成、必要機材の点検と設営方法の検討、番組全体の構成と進行計画、要員配置計画の検討にとりかかった。

当時すでにCANAL ONCEは日本政府の援助によって、番組制作機器が充実しつゝあ

ることが、パナマでは周知の事実となっており、各商業テレビ局、米軍テレビ局関係者は CANAL ONCE の制作する成果品を注目していた。

このような状況の中で、専門家チームは、このナマ中継番組を遺漏なく制作・送出するため、要員訓練の的を「法皇夜間ナマ中継」に絞って全力をあげた。CANAL ONCE としては、はじめての経験であったが、新鋭機器供与直後という時期だけに、失敗は許されないという気持で、要員訓練が連日続けられた。

結果はきわめて鮮明かつ安定した映像が厳かに映し出され、CANAL ONCE の評価とともに日本の技術協力の成果も大いに高めることとなった。

3月7日「REVIEW会議」を開き、CANAL ONCE 職員に撮影、照明の技法、伝送上の問題点と要領をあらためて詳しく解説した。

このあとも重要事件の報道には CANAL ONCE も参加制作するようになり、同年4月の憲法改正に伴う Coloquio、8月の国啓長官更迭式等の中継も実施したが、今後は経験を重ねることにより、ナマ中継への自信がついてゆくことと思う。

(4) 日本紹介番組の制作と国際理解の促進

CANAL ONCE 計画はその国の文化向上とナショナル・アイデンティティ確立に貢献するだけでなく、テレビ局の広報機能をうまく活用し、日本・パナマ両国の理解促進に役立つ側面を持つ特殊なプロジェクトである。

われわれ専門家チームはこの特殊性を活かすため、日本の番組の導入、日本関連のニュース取材を番組指導の一環として実施したが、CANAL ONCE 側も日パ相互理解に役立つ素材の番組化に積極的に協力した。

ア. ニュース番組を通しての日本紹介

日本からの各種調査団の来訪、供与機材の贈呈式、各種覚え書、協定等の調印は専門家の情報提供によって積極的にニュースに取上げたり、日本大使館主催の活花の「デモンストラーション」(草月流)等も日本文化の一端として紹介し、好評を博した。

イ. パナマの電源開発に生きる日本の技術紹介

パナマ西部のチリキ州の山中にあるエドウィン・ファブレガ・ダムはパナマ電力公社が政府の経済社会発展計画の一環として建設中の大型ダムであるが、このダムには日本の建設会社も参画している。

CANAL ONCE では JICA の支援を得てこのダムを取材し、この国の経済発展に資する日本のダム建設技術を紹介し、パナマ国民の日本理解の促進に役立てることができた。

この番組は日本人専門家の指導で CANAL ONCE 職員が必要な映像、効果音を取材し、スタジオにおける電力問題専門家、ダム建設技師との対談を組合せて、83年10月5日放送された。

ウ. 日本賞「教育番組国際コンクール」への参加

1983年度当初、日本賞「教育番組国際コンクール」事務局から CANAL ONCE に対し、コンクールへの参加呼びかけがあった。パナマの特殊性を活かしながら、世界各国から関心を持たれるテーマを選定すべく議論を重ねた末、遺伝性の血液病問題を取りあげ、担当プロデューサーを Marina Vargas と決定した。

このあと相沢専門家が取材の手順、インタビューの方法、利用するインサート用資料、図表の収集、全体の構成、編集技法等を指導して、「貧血病はもうごめん」というドキュメンタリー番組にまとめさせ、日本賞コンクールに参加した。

今回のコンクールには世界54ヶ国から98本のテレビ作品が参加したが、CANAL ONCE の「貧血病はもうごめん」は UNICEF 賞に選ばれた。

これによってパナマの CANAL ONCE は世界の教育テレビ関係者、教育学者からその制作活動が認知され、逆に日本もまた世界の教育テレビ界に主導的な役割を果たしていることが、パナマ市民に周知されることとなった。

エ. JICA 協力活動の紹介番組の制作計画

パナマに対する日本政府の技術協力はここ数年来いちじるしく拡大された。CANAL ONCE 計画のほかには職業訓練センター計画、都市交通システム改善整備計画、国土地理院国勢地図帳作成、森林資源調査、カリブ海漁業資源調査、鉱物資源開発計画等、幅広い協力活動が続けられている。

専門家チームは現地日本大使館の支援を得て、これら JICA の活動をパナマ市民に紹介することを企画、CANAL ONCE 副局長の Julio Barba 氏をレポーターに起用することとした。

番組制作の過程を同局スタッフの研修の場として活用しつつ、かつ、成果品は日パ両国の相互理解の深化に役立てようというのがこの計画の狙いである。

この計画は、番組制作専門家の交替時期にまたがったので、前専門家(相沢雅春)が、協力プロジェクトの調査活動を行ったところで後任の上田昌彦専門家に引継がれた。

オ. 日本番組のスペイン語版改編訓練

(ウ) 文化無償協力による日本番組の供与

58年度において、外務省の「文化無償資金協力」によって日本の教育テレビ番組が贈与されることとなり、これを CANAL ONCE の電波により放送することとなった。

本件については、年度当初から日本大使館との協議を重ね、同年11月9日パナマ政府外務省において在パナマ茂木大使と Oyden Ortega 外相との間で交換公文の署名となった。

贈与の内容は、

おとぎの部屋シリーズ

16本

アニメーション人形劇	26本
自然番組	9本
音楽番組(名曲アルバム)	1セット
ドラマ(川の流れはバイオリンの音)	1本
教育番組セグメント(物理)	35本
※幼稚園、保育所向けシリーズ	9本
※小学校低学年向け「理科教室」	9本
※小学校低学年向け「算数番組」	13本
計	119本(約4,000万円相当)

で、すべて58年度内に発送された。

幼稚園・保育所向けの31本(※印)はスペイン語に吹替え済みで、他はスペイン語台本つきで贈与された。

これらの番組は番組制作指導専門家がCANAL ONCEの職員を指導して逐次スペイン語版を作成してゆく計画である。

(f) 放送文化基金(HBF)からの番組供与

これより先、57年度には放送文化基金(HBF)から日本の教育教養番組(15本)がCANAL ONCEに対して贈与された。これらの番組は一部相沢専門家の指導でスペイン語版に改編、ひきつゞき後任の上田専門家によって作業が続けられつつある。

HBFからの供与番組は英語版によって提供されているので、これを翻訳してスペイン語版に改編する作業は、将来ともCANAL ONCEとしてはきわめて有効なテクノロジー・トランスファーになるものと考えられる。

これまでCANAL ONCEで放送された番組は、「産業ロボットの驚異」(83.11.2、83.12.2、84.1.6、84.4.6)、「精魂・浜田庄司」(83.11.16)、「日本の子供歳時記」(83.11.18、83.12.30)、「着物」(83.11.25、83.12.23)、「中国文明と風土」(84.3.12)、「夜明けのアマゾン」(84.3.26)、「名曲アルバム」(随時放送)で、そのほか収録準備中または収録方法検討中のものとして「出生1週間」「黒沢明の世界」「雪と炎の祭り」「いけ花」「オーロラ」「アランダスの長寿村」「かぐや姫」「鶴の恩がえし」等がある。

(5) 特別訓練計画

長期派遣専門家による要員訓練はおよそ以上のとおりであるが、このほか特殊な専門分野における特別訓練計画を次のように企画した。

ア. テレビジョン美術業務

イ. スタジオ照明技術

ウ. 局外番組制作(含ENG)

このうち、「局外番組制作」については、業務の性格から中継車が配備される時期にあわせた方がより効果的に訓練が出来るものと考え、当初の計画を変更し、59年度に実施することとした。

ブ. テレビジョン美術業務(58.8.31~58.10.13)

講師 NHK制作業務局美術部チーフ・ディレクター

杉 山 茂

美術関係業務はテレビ番組制作活動の中では特殊な技術を必要とする分野で、この間 CANAL ONCE で美術を担当する Rafael Navarro, Pedro Montañes, Alvin Bravo の3名に対して、「セット材料の選び方」、「ユニットの組合せによるセットデザインの方法」、「プラスチックによる生花木装置」、「ブラウン管を通した色彩効果」「グラフィック・デザイン」、「クロマキー効果」等専門的な美術関係業務に関する訓練を理論と実習を組合せつゝ集中的に実施した。

このほか、プロデューサー、技術運用部員を対象に、「トーク番組のセット」、「グラフィック・デザイン」、「シルエットの使い方」、「人形劇セット」、「セットと照明効果」等について座講を行ない、人形劇セットについては演習の形で実際にセットの建込みを指導した。

なお、期間中杉山専門家はクロマキー・スクリーンを組込んだニュース番組用の固定セットの制作を指導したが、このセットは58年10月14日のニュース番組「MEDIA HORA」から使用を開始し、現在もきわめて有効に活用されている。

イ. テレビジョン照明技術(58.11.17~58.12.28)

講師 NHK制作技術局技師 野 沢 隆 夫

照明器具がスタジオに取りつけられてから約1年を経過したので、スチール・ワイヤの歪み、滑車等の油入れ、ナット類の締めつけ等を照明技術の専門家をお願いするとともに、期間中「テレビ照明の基本」から「応用照明」に至るまで幅広い指導を要請した。

野沢専門家は、照明を担当する Abraham Teran, Jaime Benitez だけでなく、CANAL ONCE の技術現業部員プロデューサー全員を対象に、照明技術がいかに関組効果を向上させるかを説明し、カメラを通して照明効果を映像化する手法を懇切に指導した。

照明技術の特別研修が比較的短期間ながら効果をあげ得たのは、長期派遣の屈森専門家が83年6月~10月「照明講座」を設けて CANAL ONCE の職員に対し、十分なオリエンテーションを行ったためである。

なお、CANAL ONCE では83年12月15日、パナマ駐在の茂木大使、パナマ大学学長、文部次官、その他の高官を招いて新スタジオ開所式を行ったが、式典ならびにアトラクションを効果的に演出する照明技術を、野沢専門家が第一線に立って指導したため、スタジオを満了した来賓一同が等しくその照明効果の鮮やかさに矚目したことを付記しておきたい。

4 カウンターパートについて

新スタジオに供与機材が据けられ、これから訓練が軌道にのろうとする83年4月以降、番組部長 Luis Prescott、技術運用部長 Seferino Nuñez、技術部長 Alejandro Carrasco が相次いで CANAL ONCE を辞し、代って番組部長に Vilma Garcia de Barba、技術運用部長に Manuel Reyes、技術部長（代行）に José Lasso de la Vega がそれぞれ任命された。

番組部長、技術運用部長、技術部長と言え、テレビ放送現業の中核であり、技術移転の柱となるべき地位であるとともに、3名はパナマにおける教育テレビ活動に当初から参画してきた人物だけに、すみやかに体制の建直しを図る必要が生じた。

このため83年6月の作業委員会において、カウンターパートを指名し、体制を建直すよう要求した。

とくに A. Carrasco 氏については、テレビ技術全般に通暁する人物であっただけに、この人物を欠くとき、限られた期間内に技術移転の効果をあげることに危惧を感じ、これを打開するため担当部門を細分化して技術移転を図る必要に迫られた。また編成、美術についても、この機会に新たにカウンターパートが任命された。（次表参照）

部 門	専 門 家	カ ウ ン タ ー パ ー ト		日 本 での 研 修
管 理	栗 屋 淳	Itzel V de Cortés		1981 個別
		Julio Barba		1974 集団 1976 個別
番 組	相 沢 雅 春	編 成	Denis Melendez	—
		制 作	Vilma de Garcia	1983 個別
			Esmeralda Sepulveda	1983 集団
			Marina de Vargas	1982 集団
		報 道	Vielka de Avila	1980 集団
美 術	Rosalina Pinzon	—		
通 用 技 術	富 森 茂	調 整	Manuel Reyes	1981 集団
		カ メ ラ	José Sanchez	1983 個別
		照 明	Abraham Teran	—
送 信 技 術 及 び 保 守 技 術	緒 方 惟 孝 (富 森 茂	José Luis Lasso de la Vega		1984 集団
		Sixto Madariaga		1982 集団

5 プロジェクト推進上の問題点

(1) プロジェクト期間と訓練方法

1981年2月11日、日・パ両国の代表者によって調印された議事録(R/D)によれば、プロジェクトの協力期間は調印の日から5年間となっている。

しかしながら、プロジェクト開始に当って、パナマ側の準備作業が大幅におくれたので、実質的には協力期間は約4年間となり、我々のチームはその前半を担当したことになる。

既に述べたように、「パナマ国営教育テレビ計画」はセンター協力という位置付けでスタートしたが、センター協力プロジェクトがすべて職業訓練センターと同様の方式で訓練することが求められるならば、当初から受講生、訓練施設、INSTRUCTORの役割を果たすカウンターパートが日常の業務活動と切離した体制として位置付けられることが不可欠であることを痛感した。

受講生自体も訓練を受ける目的で集められた集団として、その知識、経験のレベルを一定に揃えることが必要である。

CANAL ONCEでは実質的に放送事業活動を行ないながらここに働く要員を訓練するわけで、当初から所謂「クラス方式」で対処することはいろいろな困難が伴った。

従って、日常業務活動の中で、訓練時間、施設、受講生等の調整を図りつゝ要員の育成を図ったが、この中で可能な限り座講型式も併用して、実習のほか「理論の習得」も出来るよう努力した。

CANAL ONCE側として、INSTRUCTORも置けず、施設・要員も現業活動と共用という現実がある以上、次ぎのチームもおおむねこの方式に拠らざるを得ないと思う。

(2) 要員と資金の確保

放送局の運営を支えるのは三つのM (Manpower, Machine, Money) である。つまり、「ひと、もの、かね」である。このうち、もの — 機材 (Machine) については、日本政府の供与により、CANAL ONCEでは一応の体制が整えられた。しかしパナマ側の責任である要員と運営資金の確保については、過去2年間きわめてきびしい状況に置かれたままであった。

この中で、我々4人の専門家は、制作、送出設備の取付け工事を促進し、また技術移転の面でも一応放送局としての事業活動が出来るよう方向づけたつもりであるが、次の目標としては、安定的な制作体制を確立し、これにより「自主制作能力の向上」を志向したい。

CANAL ONCEに残されたもうひとつの大きな課題である放送網拡充計画についても、まず安定的な制作体制によるしっかりした番組計画が樹立されなければならない。これなくしては、放送網拡大を裏付ける迫りに欠ける結果となることは明らかである。

ところで、安定的な制作体制を目指すためには、パナマの労働法、労働慣習を考慮するとき、現要員数（CANAL ONCEは局長以下約50名であるが、管理、庶務、用務員を除くと、実質的には番組制作、運用、選出等に従事する現業要員は40名以下である）ではいかにも不安であり、必要な要員の確保と、要員の流出防止には最大限の努力を望みたい。

運営資金については1983年度の予算が396,000ドル、このうち人件費を除く事業運営費は130,000ドル（32.8%）ときわめて苦しい状況である。このため番組制作費の捻出にプロデューサーは常に苦慮しており、出演料も支払えない状況では勢い、出演者の選定にも限界が生じ、企画も貧困に陥り易い。

パナマ人プロデューサーの手で、パナマ人のための番組を制作するところにCANAL ONCE設立の意義があったわけで、番組制作費の確保が要員確保と並んでCANAL ONCE今後最大の課題である。

1983年8月パナマ大学と文部省との間に締結された「CANAL ONCE運営に関する協定書」によれば、CANAL ONCEに副次収入への途を開いているが、協定上の文言と実際の収入見込みとは別問題で、今のところ具体的な収入の目安はついていない。

この協定に定められた事項の実現についてはConsejo Directivo（CANAL ONCE経営委員会）によって決定されることになっているが、副次収入の増大を図るとともに、基本的には先ず文部省、パナマ大学がCANAL ONCEのための予算増額を図ることが本筋である。

(3) 番組制作上の問題点

番組制作上の問題点も前項に記した要員問題、予算問題に集約されるが、その他留意すべき問題点として次の2点を指摘したい。

ア. 双方向性の確立

CANAL ONCEでは月～金、午後5:00～10:00 1日5時間の番組を選出しているが、このうち週2～3本の30分乃至60分番組の制作が精一杯の状況である。

しかしながら、これらの自主制作番組が送出されたあと、どのような受信者がどのように番組を受止めたか、CANAL ONCEではこの反響を正確に把握していない。この反響をベースにして、次ぎの番組が企画され、受信者のニーズに応える番組が制作されてゆかなければならない。

とりわけ教育テレビにおいては、放送局から受信者への一方通行でなく、受信者の意向視聴習慣、視聴態様の把握によって送り手と受け手の双方向性の確立が必要と考える。

在任中、CANAL ONCE受信者の意向、態様を把握することの必要性を繰返し強調し、相沢専門家が中心となって設問の作り方、サンプルの数、調査の方法、集計と分析方法等について議論を重ね、調査の実施を示唆したが、仲々実施に至らず、宿題として残されて

いる。

イ. 番組制作過程におけるリーダーシップ

CANAL ONCE においては、カメラワークも場面の切替えもカメラマン、スイッチャーに任されていて、番組制作におけるリーダーシップが発揮されていない。

従って、番組内容、演出についての最終責任が明確でなく、企画の意図が正確に表現されているかどうか、疑問が残る場合が屢々あった。

また局外中継（録画）番組等は技術要員中心で制作され、プロデューサーが参画しないことも多い。男性プロデューサーが殆んどいないことも原因であるが、プロデューサー抜ききの番組制作は事実をそのまま伝達するに止まり、CANAL ONCE としての制作意図が視聴者に伝わらない。

この点について、日本人専門家側から屢々指摘されたが、プロデューサーの絶対数が不足していること、この種の大型番組の制作に経験のあるプロデューサーがいないこと、またパナマにおける永年の作業慣習であること等の理由から難しい面もあるが、是非改めてゆきたい問題点である。

番組制作過程における責任体制の確立は、番組の企画、演出、そして将来における番組改善の原点である。

(4) 技術上の問題点

ア. 放送網拡充整備

パナマでは商業放送のうち先発 2 局は全国放送網を持っているが、教育目的のため設立された国営放送（CANAL ONCE）は首都圏のみで、全国カバー出来ないことは制度的には問題があるように思われる。

現在首都圏には米軍テレビ局、商業放送 4 局、国営テレビ 1 局計 6 局がある。このうち、商業放送 2 局が放送波（VHF）によって全国中継しているが、不完全なチャンネル・プランのため、商業放送の既得権を尊重しながら、CANAL ONCE の VHF 放送網計画をつくることは非常に困難な状況にある。

この問題の解決のためには、UHF 導入の検討も含め、パナマ政府内務司法省の周波数管理のあり方から問い直されなければならない。昨年 8 月設立された CANAL ONCE 経営委員会（Consejo Directivo）においてもたびたびサービス・エリアの拡大が話題となっており、CANAL ONCE としては放送網計画が次の重要課題であることは確かであるが、全国に設けられる 4～5 局の中継局を十分に保守・保全するだけの送信技術者が確保されていない現状からみて、放送網拡大の時期については慎重な配慮が望まれ、少くとも事前に、次の事項について十分な検討がなされなければならない。

<放送網計画検討事項>

(ア) 技術計画

- ・送信地点、出力
- ・置局優先順位
- ・中継方式

(イ) 周波数計画（内務司法省との折衝を含む）

(ウ) 資金計画

- ・送信機、アンテナ、局舎
- ・付帯工事（アクセス道路等）
- ・維持管理費（予備品、交通費）

(エ) 要員計画

全国の中継局を保守・保全するためには、最低5名程度（INGENIEROを含む）の技術者の安定的確保が必要

(オ) 受信機普及調査

UHFを併用する場合、UHF受信機の普及状況を事前に確認することが必要

イ. 保守技術の定着

要員訓練もオペレーションに関しては、この2年間専門家の努力で着実に技能を上げ、業務に習熟してきたことを評価したい。

しかし、保守技術については、基礎学力の上に立って長期の訓練を必要とする分野であり、まだ不安を残している。

CANAL ONCEの技術職員全員が保守・保全技術をマスターすることは望めないとしても、少なくとも中核となる職員には着実な技術移転を行いたい。

このためにはCANAL ONCEを支える中核的技術者には相応の待遇を与えて、流出を防ぐとともに、保守技術の移転を可能ならしむるための予算確保についてもCANAL ONCE当局ならびにConsejo Directivo（CANAL ONCE経営委員会）のメンバーにも十分理解させる必要がある。

なお、本件に関して付言したいことは、日本製機器の部品はアメリカ、ヨーロッパ製の機器と比較するとき、必ずしも円滑に供給される体制にないことである。富森専門家もこの点を憂慮し、日本のメーカー、関係商社とも交渉を重ねていたが、供与機材の予備部品補給体制については満足すべき状況に至っていない。とくに中南米の場合、予備部品の補給において、アメリカ製に比べて距離的に見て、日本製の機器は非常に不利な条件下にあることを痛感した。専門家がいくら保守技術の必要性を強調しても、修理、保守を可能ならしむる部品補給について日本の機器に不満があれば、長期的に見て中南米諸国における機器のアメリカ志向を防ぎきれない。

政府援助で機材を供与する際には、十分な予備品をつけるとともに、メーカー側に予備部品の補給ルートを示し、場合によっては補給を確約させるくらいの対策が当面必要と考える。

このことはパナマの「国営教育テレビ計画」だけの問題ではない。日本の機材供与事業全体にかかわる問題であり、国として抜本的な対策を考えるべき時期に至っている。

6 結 び

放送局の評価はスタジオの数・広さでも、また制作機器でもなく、その局のOUTPUT、つまり受信者に提供される番組によって決まる。スタジオも機器も所詮番組を制作するためのものであり、その意味でこのプロジェクトの将来はCANAL ONCEで制作される番組にかかっている。

そして、放送番組は送り出すことに意味があるのではなく、受信者に受け止められてはじめて意味を持つものであることを考えれば、このプロジェクトの評価に当っては、CANAL ONCEのOUTPUTに対する受信者の声や期待、またパナマ有識者の番組に対する意見等も十分考慮すべきものとする。

パナマでは現在商業放送、米軍テレビ局を含め、6局のテレビ局がしのぎを削る競争状態にあり、この中で地味な教育・教養番組を志向するCANAL ONCEは苦闘を強いられている。しかし、アメリカその他の先進諸国からの輸入番組が氾濫する中であって、パナマ人プロデューサーによるパナマ人視聴者のための番組を粘り強く志向すれば、CANAL ONCEに対するパナマ市民の関心も次第に高まってゆくものと考えられる。

教育熱が異常に高いと言われる日本においても、教育番組が放送の重要な一分野として定着するまでにはかなりの長い年月を要した。

このように教育関係プロジェクトについては速効を期待することには無理な面があり、それだけに評価は慎重になさなければならない。日本の播いた教育テレビの種は時間はかかっても必ず開花するものと期待したい。所謂プロジェクト協力期間は教育テレビ活動の第一歩にすぎないが、この期間中に教育番組の企画、制作、送出の方向付けが正しく出来るように願っている。

パナマ国営教育テレビ放送計画

番組制作専門家 相 沢 雅 春

〔派遣期間〕 56年10月5日

～58年10月4日

報 告 事 項

- 1) 番組制作ディレクターの役割と番組制作システムについて
- 2) カナル・オンセへの問題提起
- 3) 在2年間の実施業務要旨
- 4) 総 括

任期2年間の報告をする前に一般的に理解しにくい番組制作ディレクターの役割と番組の制作システムについて述べたい。

後述する総合報告の意図及び問題点を理解していただきたいからである。

1) 番組制作ディレクターの役割と番組制作システム

a) 番組制作ディレクターの役割

番組制作ディレクターは他の放送専門技術分野に比べて技術習得に時間がかかり難かしい。一つの番組を制作するには、ディレクターは細かい配慮と綿密な計算にたったタクトさばきが要求される指揮者でなければならない。

アナウンサー又はインタビュアー、カメラマン、音声技術者、照明技術者、図表及びスタジオセット美術専門家等々など番組を完成するために、さまざまな分野の技術者を駆使し、制作チームとして指揮をとるのがディレクターである。ディレクターの意図する番組の企画・構成・演出を明確に理解させながらである。

番組企画はさまざまな分野の人々との接触から情報や知識が得られる。ディレクターが扱う番組テーマは範囲がない。あらゆる分野について専門知識を吸収し、理解した上で番組企画・制作を行なう。出演者に対しては専門知識の内容の検討、番組化するために適正であるかどうかの判断力。

ディレクターは番組を完成するまで、多彩で複雑な人間関係を操ってゆかねばならないのである。

b) 番組の制作システムについて

○ 番組素材リサーチ及び企画

ディレクターは常に視聴者が望む情報を敏感にとらえるアンテナを備えていること。収集した情報を基に、番組化に役立つ素材を見出す能力及び企画力が要求される。

○番組提案会議

各ディレクターが一定の時期に提案した番組企画を検討する重要な会議。一般に放送局では年度当初、年間の番組編成基本方針が明示され、その方針に従ってほぼ毎月、翌月又は翌々月の放送予定番組についての提案会議が行なわれる。ディレクターは常に提案を用意し、この会議に備える。

この他に番組編成会議があり、採用された提案の放送日、時刻の決定を行なう。

提案会議が定期的に行なうことにより、各ディレクターの番組制作分担と番組完成までの制作スケジュールが計画的に行なうことができる。同時に制作以外の技術スタッフと機材の計画的、効率的運用が可能となる。

○取材ロケーション

すぐれた企画でも、どのように構成するかによって番組の完成度が極端に異なってくる。特にVTRロケーションでは事前に充分検討されたロケ台本があらかじめ用意されていることが必要である。取材の対象となる人物、風景、建物、その他構成に従って、どのような映像表現をするか指示しなければならない。

○VTR編集、台本

ロケーションVTRの編集。予定された番組時間枠ないし、構成上適切と思われる長さに編集する。編集の技術には一応の基本原則がある。しかし編集技術の習得には数多くの経験が不可欠である。

編集終了後台本を作成する。番組の構成・演出を適切に表現するため工夫する。ナレーションの文章、効果音、音楽、図表、字幕スーパー等の挿入箇所を入念に検討し、作成する。

○ダビング作業

編集完了したVTRを台本に従いナレーションと効果音、音楽等の音声収録を行なう。音楽の選曲はあらかじめ検討しておく。

○美術発注

番組構成に適切な図表、字幕スーパー等を美術専門家に発注する。わかりやすい図表、字幕スーパーを工夫する。

又、スタジオ収録で番組を完成する場合はスタジオの美術セット（舞台装置）を具体的に美術専門家に指示することが必要である。

○最終録画作業

美術発注した図表、字幕スーパーを挿入して番組は完成する。ただし、この作業はダビングと平行して行なう場合もある。

○スタジオ録画

スタジオで番組を完成する場合は、録画当日綿密な事前準備が必要である。台本、美術

セット、図表、効果音楽等はあらかじめ用意されていなければならない。出演者とは台本を基に録画前に十分な打合せが出来ていなければならない。

録画当日は、インタビュアー、カメラマン3名、テクニカルディレクター、音声・VTR映像調整・VTR操作・照明の各スタジオ技術員とアシスタントディレクター全員による台本での番組進行内容の説明、カメラ撮影順序の決定、テーマ音楽等レコードの挿入個所の指摘など細心の注意をもった打合せが不可欠である。

人形劇等複雑な動きや特殊効果、美術セットが必要な番組は録画前日にリハーサルを充分行なう。

○番組検討会

完成した番組をスタッフ全員で、又制作部に於いて率直な批評、意見の交換を行なう。

この検討会は極めて重要で、ディレクターにとって技術向上に役立つ。

c) 番組制作技術習得の難かしさ

番組の構成・演出には明確な基本原則はないといえる。

例えば、学校向け教育番組では理科・算数・社会・音楽等いずれも番組の構成・演出は全く異なってくる。しかも対象となる児童の学年によって、又異なってくる。又同じ科目でも扱う内容が変わってくれば構成・演出を工夫して、より効果的に番組内容を伝えようと努力するのがディレクターの職務である。

同様に教養番組で扱うテーマは限りなく、多様であり、従ってテーマごとに構成・演出を考えてゆかねばならない。ディレクターは数多くの番組を、それもさまざまなタイプの番組を制作し、経験を積んでゆかねばならない。

以上、番組制作ディレクターの役割と番組制作システムをごく簡単に記した。

2年間の総合報告として、初めにカナル・オンセへの問題提起をしたい。

2) カナル・オンセへの問題提起

a) 具体性に乏しい教育放送の方針

R/D 同意文書(1981年2月11日)には、カナル・オンセの国営教育テレビ放送局として、めざすべき教育放送の理念が明確に示されている。

ではR/Dの教育放送理念をカナル・オンセが段階的にどの様に実現してゆくのか、2年間の任期中、カナル・オンセ自からの具体的方針が明確に示されなかった。

我々のプロジェクトはカナル・オンセがめざすべき教育放送の具体的実現のために技術移転を着実に遂行し、かつ技術水準をより高めるべく努力することであると思う。一般に教育放送の番組群は極めて多様であり、広範囲の視聴者層を対象としている。この多様な番組群の中からカナル・オンセはいかなる教育番組を視聴者の要望に応じて実現してゆくのか明確でない。

幼児向け、学校教育向け教育番組、青少年向け、成人向け教養番組のうちチャンネル・オンセが年間ないし、半年ごとに取り組むべき番組を決定するといった方針が必要である。視聴者の反応を注目しながら段階的にいくつかの教育番組ないし教養番組を少しずつ実践してゆかないと教育放送としての番組は定着しない。又、チャンネル・オンセがめざしている教育放送は何か、視聴者に伝わらない。

2年間に於けるチャンネル・オンセ制作部の番組制作体制は教養番組が主で、視聴者の動向に留意することは希薄であった。制作部に対しチャンネル・オンセが優先的に取り組む教育番組を全員で検討し、制作部が一致協力して制作体制を行なうよう提言したが実現できなかった。同様に局長に対し、チャンネル・オンセの具体的な教育放送の方針と番組制作体制を実行する様提言したが、回答は得られなかった。我々のプロジェクトは技術移転の成果を着実に高めているが、チャンネル・オンセの視聴者は、放送で技術移転の成果をたしかめる機会が多くないのである。明確な具体的方針がないままの体制で番組企画をし、制作しても、放送では視聴者の印象は薄いし、注目されにくい。チャンネル・オンセの方針が、体制が明確であれば、放送に反映するものである。具体的方針と技術移転のスケジュールが合致すれば相乗効果として、放送で視聴者の注目を集めると思う。視聴者の評価は、プロジェクトの評価に反映するのではないか。

教育放送方針の具体化には視聴者動向の掌握が重要である。過去チャンネル・オンセでは視聴者動向について調査を行っていない。具体的方針が立てられない原因の一つであると思う。

b) ディレクター要員と制作運用費の不足

チャンネル・オンセの番組制作状況は決定なディレクターの要員不足である。任期終了時には8名のディレクターが在局していたが、一人平均1ヶ月に1～2本の番組しか制作していない。これでは週25時間の放送で、新しい自主制作番組の放映は2本～4本程度である。出来れば1日5時間の放送のうち2本以上の新しい自主制作番組を放映したい。商業放送時間帯と、都市人口に比べてチャンネルが多い現状の中で、チャンネル・オンセの教育放送を視聴者の注目を集めるために必要なのである。1日2本以上の自主制作番組を放映するためには、チャンネル・オンセのディレクター要員状況を考慮して約25名のディレクターが必要である。現在のディレクターのうち、半日勤務3名(いずれも中堅ディレクター)がおり、又全員が年間に1ヶ月以上の休暇を取得する他、時間外勤務はゼロという勤務状況であれば、要員にかなりの余裕がないと自主制作番組の量産を維持できない。

一方、番組制作の運用資金はゼロに等しい。出演料を支払うシステムは存在しない。スタジオ録音番組で不可欠な美術セットは、まれに他経費を流用して行なっている。すぐれた出演者を招き、取材ロケーションに最小限度の資金を使って番組制作を行なうことがむずかしいのである。ディレクターは番組制作意欲を低下せざるを得ない。

要員と制作費について再々局長へ提言したがパナマ政府の財政事情の困難さを説明するのみで進展はなかった。

c) 自主制作番組の不足

前項 b) で述べた通り要員不足が決定的である。新スタジオの完成で内容構成の単純な番組を数多く量産することが可能になったが、思惑通り遂行できなかった。ディレクターの要員不足もあるが、ディレクター達の性格というよりは国民気質であるが、いわゆる格好とみかけのよい番組を制作するのに熱心である。

音楽・ドキュメンタリー番組が相当ある。手間と時間がかかり自主制作番組の本数が増えない。根本的には、放送局としての具体的方針がなく計画性のある番組制作スケジュールがされていないからである。番組制作体制の統一化は自主番組の量産化に結びつき、教育放送を注目させ、視聴者に教育放送の重要性を認識させる第一歩となるのではないか。

d) 番組制作スケジュールの計画性の欠如

現行のカナル・オンセでは1週間ないし、2週間先の制作スケジュールしか決っていない。毎月1回、月初めに番組提案会議を開き、翌月分の放送について検討する案を提言したが実行されなかった。少なくとも毎月1回の提案会議が実行されれば、計画性のある番組制作スケジュールが決定し、それに伴ない、放送機材と技術要員の効率的な運用が可能となる筈である。

現行では、たえず毎日のスケジュールが変更され、予定された制作活動が出来ず、支障をきたす事が多い。

カナル・オンセとしての教育放送実施方針が年当初決定し、それに伴って毎月の番組提案会議で方針の具体化を検討することが大切であると思う。2年間、提案会議の定期開催を提案し続けたが実現できなかった。放送局としてのめざすべき教育放送の方針が明確に示されていないのも原因の一つであると思う。

e) 視聴者の実態調査について

前述 a) 項で述べたように視聴者の実態掌握はカナル・オンセにとって必須条件との観点から在任中「視聴者の教育テレビについての実態調査」をアンケート形式で行なうことにした。結論としては実施できなかった。

アンケートは30問、局長のアンケート回答者協力要請が添付されている。アンケート作成にはカナル・オンセも局員との密接な打合せの結果できたものである。しかし、配布直前に局長より一部手直しをしたいとの連絡があり、その後局長の出産等もあって、任期中アンケートの配布と回収結果のデータは得られなかった。アンケートは初めての試みであり、質問はカナル・オンセに対する教育番組の意向調査に重点を置いたものである。アンケートとしては不十分な出来であるが、回収後の結果では、第2、第3のアンケートを実施して、カナル・オンセがめざすべき教育放送の参考にすべく期待していたものである。

視聴者の実態調査はカナル・オンセにとって必要であると思う。

3) 在2年間の実施業務要旨

前半期は主に番組制作システムの指導及び、ディレクターの教育放送に対する意識改革と基本的な教育番組の内容構成制作指導を行なった。番組制作システムでは、前述の(2)項目のうち a)～d) を重点的に説明し、具体的なあり方等を問題提起として文書で指導した。が結果は前述の通りである。ディレクターに対して教育放送に対する意識調査書を配布し、彼等の教育放送へのあり方、カナル・オンセが放送すべき教育番組とは等々の意見を文書形式で回答を得た。彼等の意見は以後の番組制作技術指導に取り入れた他、アンケート作成にも一部採用している。新スタジオが完成しないため、番組制作は主にVTRロケーションが多く、従ってロケーション同行指導が多かった。

ディレクターの技能評価はやはり日本での研修経験者が高く制作部では中堅クラスを形成している。指導内容もディレクターによって格差が生じたため、主に個別指導になった。指導内容については理解力があり、意欲的に傾聴するが実行力は前述したごとく、私の思惑通り動いてはくれなかった。ただし、彼等の指向する番組について指導する時には、極めて熱心で指導効果はあがる。ディレクター全員が日常の番組制作活動で互に協力しあうことは、極めて少ない。ディレクター各自が独りで好む番組をコツコツ制作しているのである。

前半期に指導の重点課題とした、教育放送のあり方を全員で検討し、一致協力するという体制づくりは、後半期に於いても課題として残ることになった。

なお、NHK放送文化基金より、カナル・オンセに対し、15本のNHK教養番組を無償供与する事が出来た。英語版台本からスペイン語版、翻訳はカナル・オンセディレクターが行なうこととし、ナレーション収録作業もあるため、教養番組の研修教材として効果が期待できる。

後半期では、新スタジオ移行への事前指導と新スタジオ完成後の制作指導に当たった。スペースの広い新スタジオでの録画作業は、カナル・オンセのディレクターとして新しい経験である。旧スタジオは狭く、機材の老朽化に伴ない、任期中、録画作業をみたのはごくわずかであった。ディレクターの新スタジオ完成への期待は多大であり、従って、新スタジオでどの様な形式の番組が録画できるのか、又録画作業上留意すべき点は等々の疑問が続出した。そのため、完成に至る数カ月間はスタジオ制作番組の基本についての理論指導を重点的に行なった。携行したNHK教育・教養番組の試聴を併用した。

新スタジオ完成後は、畠森専門家とタイアップして新スタジオの機能紹介、デモンストレーションを行ない、ディレクターへの指導を徹底した。特に私が用意した台本を基に教養・教育番組の録画デモンストレーションを実施した。具体的に制作の準備と手順が説明できるため、ディレクターには参考になったと思う。

この他各ディレクター毎に提案した番組企画について構成・演出・台本を検討修正する座講

を行なった。同時に幼児・学校教育番組について標準的な構成・演出の指導も行なった。美術セット、照明、特殊効果等も録画時に実地指導している。

新スタジオ完成後はディレクターの新しい活動の場が与えられたことにより、番組制作は非常に活発になった。従来みられなかったことである。

任期終了近く、短期美術専門家杉山茂氏の派遣指導はディレクターにとり極めて有益であった。この他、在パナマ日本大使館の尽力によりカナル・オンセに対して約4千万相当の文化無償供与が決定し約140本ものNHK教育番組がスペイン語版台本添付（一部スペイン語ナレーション付）で引渡されることになった。この文化無償供与による教育番組が放映されれば、カナル・オンセの教育放送の充実はもとより、パナマ国での反響は多大であると確信している。なお、カナル・オンセから出品したドキュメンタリー番組「貧血はもうごめん」がNHK主催第14回日本賞教育番組コンクールに入賞した。

「ユニセフ賞」として賞状、賞金を獲得した。2年間にわたる教育番組制作指導の成果としたい。

4) 総括

現在活発な商業放送と比較して、カナル・オンセは目立たない存在である。パナマでは教育放送の分野はまだ未開拓である。パナマの教育界は極めて貧しい状況におかれている。2部制授業、校舎等施設不足、低レベルの教師である。これらの現状からみてもカナル・オンセの教育放送充実が極めて重要である。国営教育テレビ放送局として独自の自主制作番組を出来る限り放映してゆかねばならないと思う。しかし、8名のディレクターではカナル・オンセの教育放送充実はむずかしい。カナル・オンセ側の増員努力を期待しなければならない。在任中、唯一の教育テレビ放送局「カナル・オンセ」に期待する声を各方面で聞いている。

我々のプロジェクトとしては最大限の努力を積みかさねている。教育放送の充実には、多くの障害があり、そのほとんどがカナル・オンセ自から努力し、解決しなければならない問題である。任期は終了しても、カナル・オンセの今後の発展を注目してゆきたい。同時に側面から出来る限りの支援を行ないたいと思っている。



パナマ国営教育テレビプロジェクト

送信技術専門家 緒方 惟孝

〔派遣期間〕 昭和56年12月4日

～昭和58年12月3日

1 派遣の背景

チームリーダー栗屋淳氏の総合報告書のとおり

2 実際の業務内容

(1) パナマ教育テレビ局の組織の現状

同テレビ局の組織現状図を別紙に示す（NHK地方局の組織図も参考のため添付）。

パナマ教育テレビ局の組織構成は基本的には、NHKのそれと同じであるが機能的にはツギハギだらけといつてよい。これからさらに検討を加えながら中味を充実させていく努力が払われねばならないが、当テレビ局をとりまく状況は大変厳しく予算や費員の確保等直面する第1の課題の実現にはまだ相当の努力と日時を要するであろう。

更に私の担当分野の技術部門について少し詳しく述べる。

ア) 技術部門には技術部と運用部があるが、

- 運用部は機器の運用操作だけで調整・修理はしない。
- というより技術部（1～2名）で、全て機器の点検・調整・修理を行ない運用部にはさせない。

という考え方があって、カラスコ技師が辞職する1983年5月までは修理のできる技術者は彼1人であった。これはパナマ放送界全体がそうであつて、どのテレビ局も修理の出来る技術者が1～2名いるだけである。特にラジオの場合はパナマ全国で10名程度の修理のできる技術者がいるだけで、彼らが国営局・民放局もひっくるめて保守を行なっている。これは、今日まで工業高校や大学にこの分野を教える学部がなく、外国へ留学するかアメリカの通信教育を受けるか、独学するしかなかったのであろう。

※ NHKの場合技術部の夫々の分野で、責任を持って点検・調整・修理を行なっている。

イ) 1983年6月より技術部は、大学工学部在学中1名、工業高校卒1名の計2名となった。（しかしいずれも1982年6月以降の採用者）

ウ) 運用部の技術者の学歴はまちまちでハード面の対象となり得る技術者は約 $\frac{1}{3}$ 強といつてよい。そしてその $\frac{1}{3}$ 強の人のほとんどが1982年6月以降の採用者である。

(2) 実際の業務内容

技術部門を制作技術・送出と送信技術の2分野に分け後者の送信技術を私が担当した。

1981年12月から1983年11月までの2年の任期を前期・中期・後期に分けて実

際の業務内容を述べる。

ア) 前期(1981年12月～1982年7月)

主な業務内容

- 5 KW TV送信機の据付工事実地指導(1.5ヶ月)
- スタジオ建築工事の推進
- 機器故障修理のための緊急出向実地指導(3回)

この期間は

- パナマ教育TV局のパナマ大学及び文部省からの独立の問題
- 中堅技術職員の交通事故死や退職
- 職員の給与の遅配

など、パナマ教育TV局が組織的にもっとも動揺した時期であった。その上送信機据付工事にたずさわったカラスコ技師とベニーテス技術員が長期休暇(前者3ヶ月、後者1年4ヶ月)をとるなどしたため、系統的技術指導は出来ず、VTRや受信機の故障修理指導も含めて全くの個別指導であった。

又、遅々として進まないスタジオ建築工事を推進するため、パナマ大学学長に陳情したりパナマ大学建築部と週1回の打ち合せを持つなどチームリーダーを先頭にパナマ教育TV局を強力に後押しすべく最も腐心した時期である。

イ) 中期(1982年8月～1983年1月)

主な業務内容

- スタジオ機器据付工事実地指導(2.5ヶ月)
- STL-FPUマイクロ装置据付工事実地指導(1ヶ月)
- スタジオ建築工事の推進
- 電気回路基礎講座
- 緊急故障修理出向実地指導(3回)

82年6月から9月にかけて、大学工学部在学中や工業高校卒の技術者の採用が行なわれたが、欠員の穴埋のみで、増員には至らなかった。

彼らの中から5人を選び送信技術のカウンター・パート候補とし、彼ら向けの電気回路基礎講座を開始した。9月、10月はスタジオ機器据付工事のための事前指導、11月、12月、1月はスタジオ機器等据付工事に全力を注ぎ込んだ。

したがって、この間の送信所における点検・保守の実地指導は緊急出向のみとした。

ウ) 後期(1983年2月～11月)

主な業務内容

- 電気回路基礎講座
- 送信設備点検・保守の実地指導(週1回)

- 8 F 電力増中部の基礎理論と、分解・清掃・点検の現地指導
- 生中継番組のマイクロ設営現地指導
- F P U ・ S T L 及び連絡無線のチャンネルプランの実務指導
- 緊急故障修理出向現地指導（8回）

この期間は送信所保守用ジープも日本政府より供与され、ほぼ順調に業務が進んだ。しかしながら、送信技術専任のカウンター・パートを確保するため、再三再四パナマ教育 T V 局に対して要望を行った、技術部門の要員増は任期中にはついに実現しなかった。

（1983年11月には正式に文書で要請）

3 業務の評価と今後の協力のあり方に対する助言

- (1) 前期はパナマ教育 T V 局の組織的動揺、特に技術部門における技術要員の死亡や退職で、番組制作や送出の日常運用にも支障をきたす状態であったため、所期の目的は果せなかった。
- (2) 中期・後期は不十分ながらも一応の目的は達成された。
- (3) 特に送信設備、スタジオ設備の据付工事にあたり、短期専門家の指導のもと、据付工事という貴重な現地訓練が行えたこと、そして大きな障害もなく、無事運用開始でき、今日まで安定運用されていることは大きな収穫であった。
- (4) 一方、残された課題も多い

その第1は要員の確保の問題である。技術部門の職員構成上、NHKのような組織を目指すことは無理であり、したがって現在のように技術部でメンテナンスを行なわざるを得ない。しかし、全ての機器の責任を持つには、現在の2名の要員では、不足であり、最低5名は必要であろう。

1983年11月、チームリーダー及び富森専門家（制作技術担当）と連名で、技術部体制の確立を正式文書にて、パナマ教育 T V 局局長宛、要請したが当 T V 局の権限を越える問題だけに実現への道は大変厳しいと言える。しかし重要な課題である。

4 国際協力事業団に対する要望

- (1) パナマ教育 T V 局のプロジェクトはカメラ・ワークや機器の故障修理といった個々の専門分野の技術移転もさることながら放送局そのものとその放送局が生み出す放送番組に対するアドバイスであるから当然のっけから、物の考え方そのものが、いわば文化の違いがぶつかり合うことになる。

一定のカリキュラムによる座講も大切であるが「きのうの番組あれ何だい？」「この機器きょう中に修理しときなさい」といった日常会話は、相手側の反論や弁解を誘い、始業ベルのない座講は何時でも開講されている。それだから、いわゆる職訓センター方式的考え方ではとらえにくいプロジェクトと言える。

伝統にささえられたすばらしい文化を持つ経済大国と言われる日本が文化の一端を担う放送局づくりを通して相手国の人づくりに協力することはすばらしいことである。

この点の更なるご理解をお願いします。

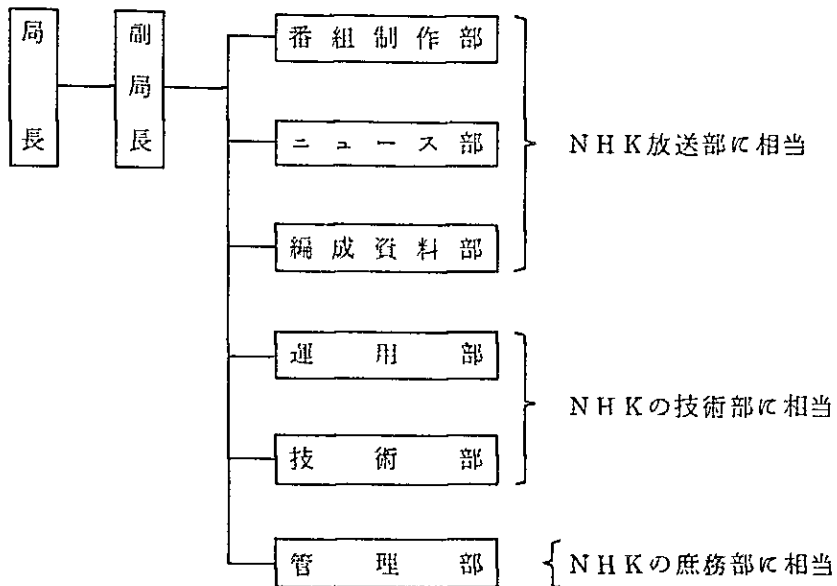
- (2) 派遣専門家 — 現地大使館 — 外務省 — J I C A — 派遣元企業のパイプはそのどの一つが詰っても派遣専門家の足を引張ることになる、そういう場合は J I C A において十分なフォローをお願いします。

5 感 想

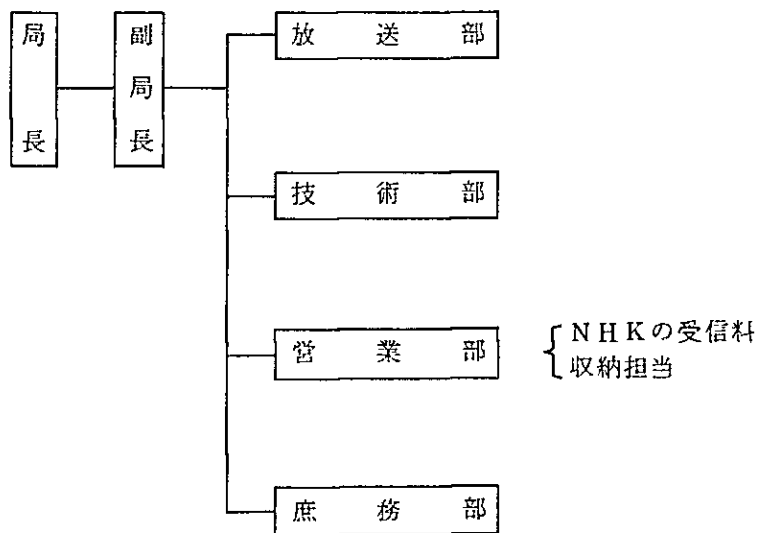
- (1) 多少の不安を持って着任したが、実際に生活をしていくうちに暑さと湿気を除けば、住めば都という気分になっていった。
- (2) 開発途上国への協力は息の永い仕事でなければならない。
- (3) これにたずさわる専門家の任期は2年が標準のようであるが最低3年は必要ではないか。しかし、これは勿論夫々の協力の内容や相手国の国情によって違ってくることであるが。
- (4) 派遣専門家にはストレスがたまる。

私の場合は、4人1組のプロジェクトであったので、お互に議論したりグチ言ったりでストレス解消に務めたが1人しか居ない場合は、J I C A 事務所や大使館の役割は大きい。又、派遣元企業のフォローも大切である。

(パナマ教育TV局)

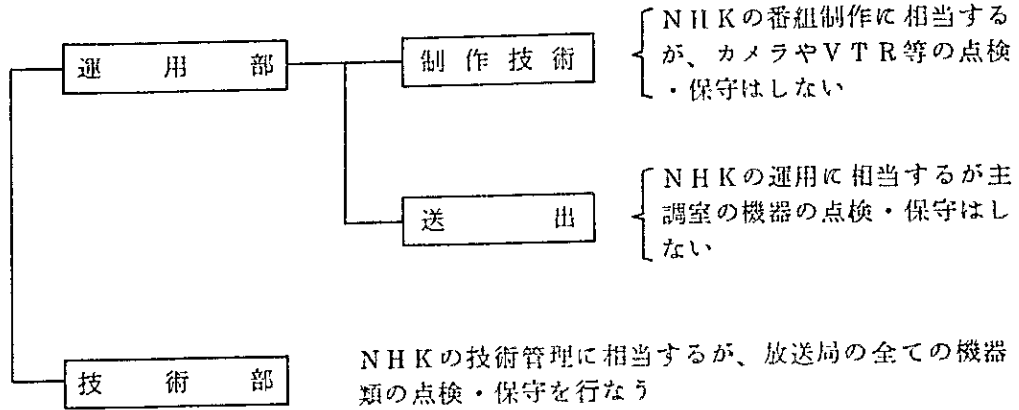


(NHK地方放送局)

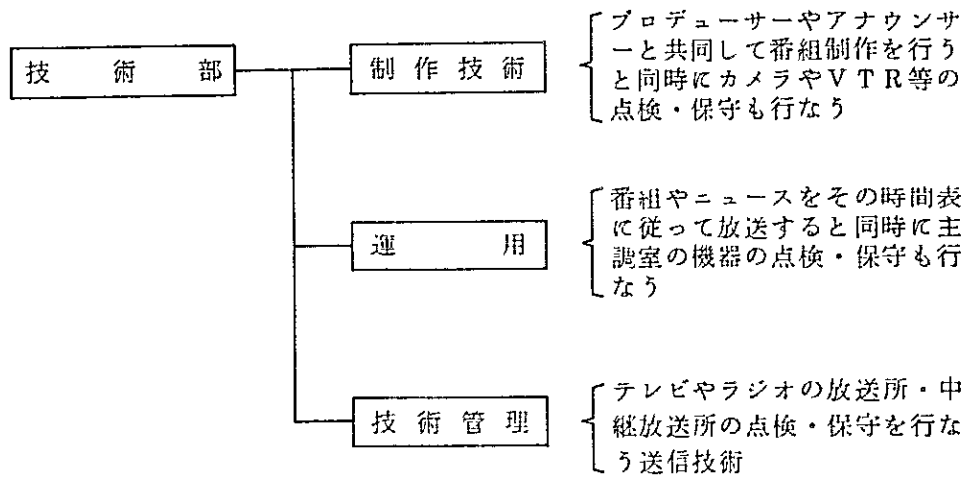


〔技術部門の組織図〕

(パナマ教育TV局)



(NHK地方放送局)



パナマ国営教育TV放送計画

スタジオ技術専門家 富 森 茂

1 派遣期間

自 1982年3月20日

至 1984年3月19日

2 指導分野

テレビスタジオ技術

3 派遣の背景

パナマ国営教育TV放送プロジェクト計画チーム(4名)の一員として派遣された。プロジェクトの背景についてはチームリーダーの報告どおりである。

4 業務の内容

小職の業務は着任当時既に半年近く倉庫に眠っていたスタジオ機材を早急に据付けるべくパナマ大学建築担当部への工事促進要請の会議に出席するところから始まった。

そして、全期間を通してその脆弱な整備部門の強化を最重要ポイントに据え、日常の番組制作、設備整備保守における実地指導を訓練の核としながら指導に当たって来た。

第一年目は大学建築担当部、工事業者へのコンサルタント・監督と既存設備・機材の運用・保守の実地指導そして新採技術要員のTV基礎教育を実施し、3ヶ月に亘る機材据付工事指導直後のローマ法王訪米生中継の全面・全力指導で前半期を終えた。

第二年目はようやく確保されたスタジオでTV照明技術を加えた継続しての技術基礎座講教育、新機材で格段に活発化した番組制作活動の中での実地指導による訓練をすすめた。

(4-1) スタジオ建設指導

マスタープランに基けば82年3月には第一期供与機材による指導のスタートを切ることになっていたが、進捗は大幅に遅れスタジオは屋根と壁だけの空洞であった。

打合せの頻発、鉄骨構造物工法・床ビニール材質選択など諸項目指導、施工の実質監督、工事指示文書(西文)作成など早期完成に向け大きな努力を要した。

遂には大学総長との会見を求め、特例の大学直営工事とさせることで丸一年遅れののち、82年10月末ようやく工事専門家の招聘に漕着けることができた。

(4-2) スタジオ機材据付工事

82年10月27日より83年1月6日まで約70日。

これはまず、スタジオ副調設備・照明設備の4工事専門家の着任で始まり、乾期が早く始

まりながら空調のまったくない連日 sauna での重労働であった。建物工事の遅滞、現地要員の質・量の制約の中で「スーパーバイザ」方式ならぬ「スーパーレイバ」方式により連週での土曜、多かった祭日全出勤でようやく期日通りの引渡しを受けた。新人の多い現地技術要員は、日本式のテンポの早い工事進捗に驚きと十分助力できないギャップを感じながらも、様々な電気工事法を肌身で学べる貴重な機会になったようだ。また残された多数の工具・機器類も管財を指導しながら今後の設備保守に役立たせるようにした。

(4-3) TV工学基礎教育(座講)

着任当時、機材整備能力が皆無に近く落ちていたナカル・オンセも国家人事規則の様々の制約の中にありながら、整備保守を主担務とした工学系要員5名を82年4月から7月にかけて補充採用した。専門家グループとしては彼らに機材整備・保守能力をできるだけ高めさせることが最重要課題と判断し、最大精力をこれに注ぐことにした。しかし、彼らも純粋に整備業務に専念していただける訳ではなく、全体的要員事情から番組制作技術要員としての役割をより大きく求められていたため、技術教育を施すのも日常業務の合間を縫わねばならず容易なことではなかった。

(イ) TV技術概論(82年7月より3ヶ月半)

(ロ) 新スタジオ設備概要と電気工事基礎実習(82年10月 1ヶ月)

(ハ) カラーテレビカメラ基礎(83年4月より6ヶ月)

(ニ) VTR基礎(84年1月より1ヶ月半、後任専門家に引継ぎ)を実施した。

(4-4) 番組制作技術(座講)

当プロジェクトは74年より続けられていた単独派遣協力による成果を基に置けるので、小職任期中ばに完成した新システムの中では、全くの新分野であるTVスタジオ照明技術の指導に力点を置いた。

(イ) 照明技術(83年6月より4ヶ月)

この座講には1年をかけて西訳した教材を使い、また実習、日常の番組制作での実施指導を繰り返しながら照明担当要員2名を中心に運用部員を広く指導した。この指導は11月18日より約40日の短期専門家指導に引継ぎ、折りしも新スタジオを使って大きく活発化してきた通常業務をも指導に含めることができ、大きくその技能を前進させることができた。

(ロ) カメラ操作・画像の連続性(83年1月より1ヶ月、後任専門家に引継ぎ)

(4-5) 実地指導

本計画はセンタープロジェクトでありながら、その協力対象機関が放送実務を遂行しているという特殊な性格もあり、指導・訓練は限定・固定化された指導対象者の技術レベルの向上に置かれ、前述した座講形式の指導はあくまで基礎段階にすぎない。通常業務の中でスタジオフロアで共にカメラを操作し、調光卓を操作しながらそして番組批評会を通して全般的

に指導してきた。

ローマ法王訪バ生中継（準備を含め1ヶ月）、憲法改正、生中継（1ヶ月延べ8回）、国防軍長官交替式等の特別番組も全面的に指導し効果を上げた。

機材整備についても日々調整を迫られる機器、機材を小職自らが調整をし、それを見学させ、そして解説していく中で徐々に訓練生に肩代りさせていった。きわめて実戦的なものであったが効果のある指導となった。

（4-6） 指導資料（西語）作成

番組制作技術には西語本が皆無であったため、

(i) カメラ操作・絵の連続性（78ページ）

(ii) テレビ照明技術（122ページ）

について西訳し、座講の中で活用した。またこれによって要員流動の大きい中で技術が継承されやすいように努めた。また、(ii)の本では短期照明技術指導の内容（座講、実番組、照明プランおよび調光指導）を西訳し、カラー写真を加えて継続・拡大的学習が出来るようにした。

その他、JICA先輩専門家の作成したTV工学研修図書もコピーをつくり（6種18冊）自主学习できるようにした。

（4-7） その他

(i) 短期専門家指導協力

任期中、TV美術、TVスタジオ照明について2専門家による短期指導が招聘されたがそれぞれ現地要員への通訳、座講運営、業務調整等に全面的にバックアップ協力した。またその後はその指導内容の西訳資料化、提供資料の西訳化を行ない、指導を有形化することに努めた。

(ii) 機器、設備の管財、保守管理指導

供与機材が、カナル・オンセが従前もっていた固有のものに比し飛躍的に拡大したため脆弱であった管理形態に代えて適切なものを導入すべく準備し、そして実施指導してきた。

機材管理については機材台帳、管理コード形式を設定し作業を進めてきた。現地側の要員不足、不慣れもあり、その定着化は今後の課題であるが、その導入部はしっかりと築いてきた。また、機器保守記録カードを導入し、機器補修、その履歴管理を若い技術班長代行と協力して進めるようにした。約1年の期間はすべてが自己の記入したカードのみという状態であったが、任務交替期の84年年明けに至ってようやく若い整備員の中に積極的姿勢がみられるようになってきた。今後を後任専門家に負うところが多い。

5 業務の評価

（5-1） 放送実務機関への訓練

カナル・オンセへの技術移転はセンター計画とはいえ、日々常々TV番組の制作・放送を本業業務とする組織体を指導する極めて実践的な質的向上を目指した訓練であり、指導の場機材は毎日空かすことなく自己研 習を兼ね実務に利用されている。

局員も50名弱、技術関係ではわずかに20名弱にすぎない。このような小さな組織では研修・訓練のための余剰人員を持つことは非常に難し、入局時より即戦力として期待される。こうした組織実体の中で限定固定化された訓練生にテレビ番組制作を指導するには実地指導が好ましく、またそれによって十分な効果が得られると考えている。

指導対象者が拡大することが我々専門家として大きな希望であったが、とりまく諸条件から極めて難しく、今後もこの規模で進むとみられる。協力期間も後半期に入り、増々実地指導の重要性が高まるとみられ、こうした訓練の特殊性に関係機関のご理解を得てご協力を賜りたいと願っている。

(5-2) 技術整備部門強化のために

83年第3期定期報告にも報告した通り、新設備規模に望ましい要員5名に対し現状は勤労学生3名(経験2年)を擁しているに過ぎない。また、一般事務機器車輛まで含めた補修予算が極めて小額で、このままでは2~3年以降に生じてくる供与機材の整備維持に支障を来たすことは目にみえている。局運営委員長(文部大臣)、局長に提案書を出し窮状を訴えても、その法的位置付けがまだ弱体な中では解決能力をもたない。

こうした中では、プロジェクトの成功のみならずその後のパナマ側による機材有効利用のためにも、前打合ミッションの御努力にもみられるように日本サイドからの高官レベルへの改善要望を今後も出していかなければならないのではないだろうか。

(5-3) 10年の歴史の上でたつて

着任当時カナル・オンセは組織として最悪の状態にあったように思う。半年前に開局した民放局に要員がドッと流れ、そしてまた日本のプロジェクト協力に応えようとしたのであろうが組織移管問題が座折し職員給与が遅配し、運用経費がよく底をつき、苦い重い面持ちで階段に座り込んでいる職員をしばしばみた。

しかし、任期2年の終端に立って改めて眺めかえしてみるとその後工学系学生職員が採用され、番組制作に大いにたのしさをみせるプロデューサー、カメラマンが入局し、そしてまた設備面でもスタジオ建物、大道具室、駐車エリア、専門家の勧告による中継車、車庫もりっぱに完成させた。

機材引渡式の83年12月前後にはスタジオは毎日番組制作の場面がみられ、張り切り過ぎからであろう、やや疲れすらもみせていた。

10年前、日本の技術協力をスタートさせた現チームリーダーの宮崎専門家によれば、大学、文部省の寄せ集め世帯、借り物の一室から始まったカナル・オンセも、今ではプロデューサーの組織が存在し、一応の台本があり、番組制作の切日に合わせ必死になる程に変わった

その変り様は大きいという。20名に満たない数から50名程に増え、定着性の少ない労働事情の中で7年以上のキャリアをもつものが、7～8名も残っている。日本の研修関係者の心をとらえた JOSÉ SANCHEZ 君もその一人だ。

日本で、そして巨大組織に働き続けた人間にはこうした動きは余りにも弱く緩慢に映る。しかし、取りたてて金の成る資源を持たず運河だけに頼る小国には精一杯のそして大きく背伸びした、日本の協力への対応であったに違いない。

海外ものに埋めつくされたパナマ民放の谷間の中でカナル・オンセは短番組ながら、パブリック・マーケットに生きる一市民の生きる姿を掘り出し、飛行機でしか入れない辺境の地からインディオの生活文化を紹介し、国に活躍する文化人をシリーズでブラウン管に映し出し、国民教化に努めている。新しい機材でつくられた新鮮な絵はよりパナマ市民を捉えていくにちがいない。

こうして眺めると、僅か2年を余すのみになった当プロジェクトも彼らにとって台風一過のような期間に写るのではないかと思うが、しかし、その着実な成長のために彼らの姿にあった息の長いそして長いゆったりとした協力が望まれるのではないだろうか。願わくば、ゴムがその径を細くして長さを延ばすように日本の協力プロジェクトももっとフレキシブルに形をとりうるものであったならばと思わずにいられない。

6 感 想

赤道近くの灼熱地獄……これが赴任前の気持ち。身構えて出かけたものであった。しかしこの春先、寒温の差の大きい日本でパナマの気候を振り返ると年間28～34℃、朝・夕年間の差もほとんどなくかえって過しやすかったのではないかとさえ思われる。朝方27℃では寒くて薄手のカーディガンを羽織りたくもなる。もっとも風通しの良さを十分に考慮してアパートを求める必要はあったが、結局2年間クーラーは要らなかった。

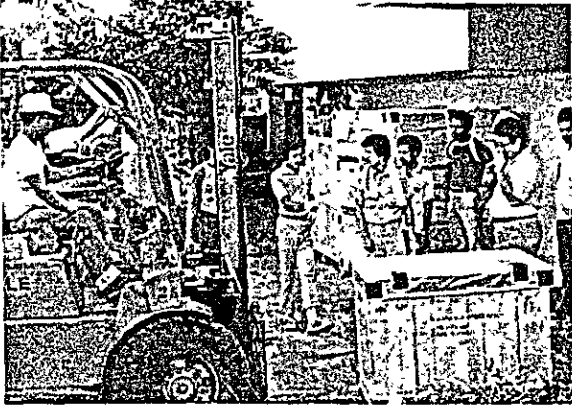
わが家は日本人居住地区の周辺部にアパートを求めた。近くには日本人はいず、遊び仲間の点で子供は犠牲を強いられることになった。しかし同一アパートのパナマ人の家族から声を掛けられ「HALO」には「HALO」で「CUANTOS AÑOS TIENES (いくつ?)」には「AYAKA (自分の名)」で答え、そして誰かれかまわず小さな手を差し出して「COMO ESTÁS? (お元気?)」と近付く下の娘の自然な浴け合いは誠に心にくるものがあり、「ほゝえましい」という言葉以上のものだった。我家はこの娘達のチビッ子大使のお陰でアパートの住民と随分交わることができた。イライラの多い仕事ではあったが、家庭とその周りでは思い出深い生活が出きた。

昨年末から今年にかけ長期専門家も含め、日本人の幾つかの家庭が空巣に入られた。木製ドアの錠部を破られての侵入である。パナマではこの木扉に更に鉄格子扉をつけることが一般であり、こうしたアパートに住むものは被害がない。生命、財産の基本を守るものとしてこうし

た設備投資が不可欠であることを報告しておきたい。

カナル・オンセでは週25時間放送、約60本の番組の中で自局ものは30%余(再々放送
ものが多いが)である。他は全て外国からの提供ものである。供与されたTVスタジオ放送機
材を通して日本を除く外国ものが多く放映されていくのを、そして電話1本で大使館より提供
されていくのを幾回ともなく眺めてきたが、日本からきた専門家としてはそれは何とも寂しい
ものであった。

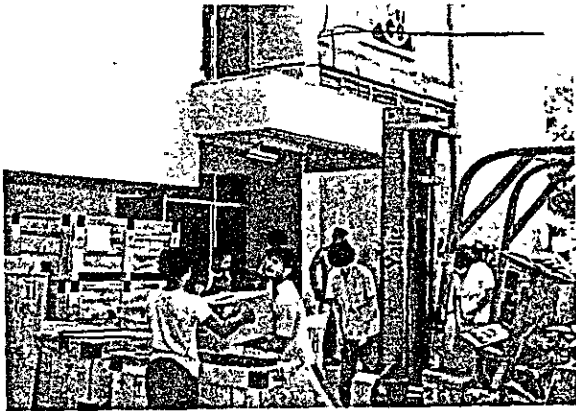
自作ものが技術供与によって増え、視聴者の関心がカナル・オンセにももっと集まってこよ
うという中で、日本からの番組がもっと放映されていくことになれば、技術にとどまらない幅
広い国づくりにそして日本への理解をより深めていく上に役立つのではないか。途上国では日
本のような先進国とちがいTV番組は一過性でなくより長い生命をもち、そしてパナマの小さ
な放送局には現地語の完成番組がほしいことをもう一度思い出しておきたい。



日本政府供与のスタジオ機器第1陣、パナマ政府の倉庫からCANAL ONCEに到着(57年11月)



VTR機器、テープ開梱



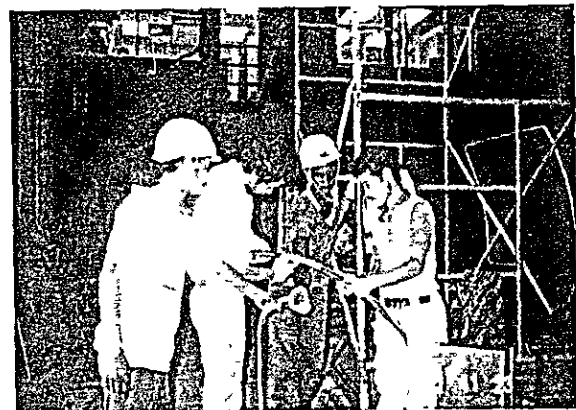
同上



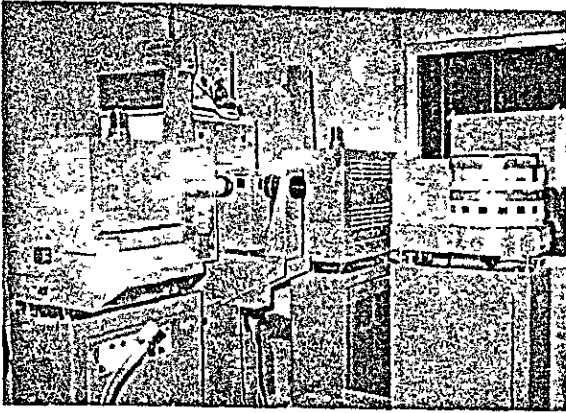
照明器具開梱、員数点検



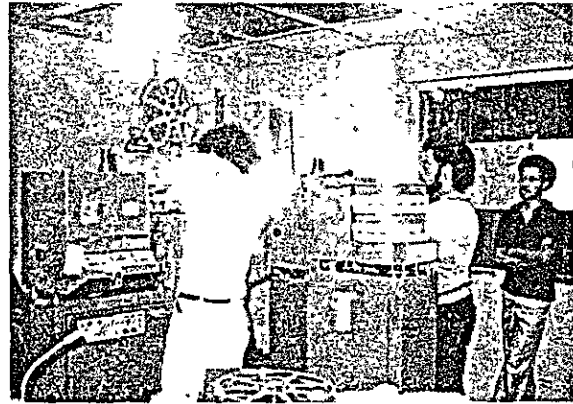
照明ランプ取付け作業
CANAL ONCE 技術スタッフ全員参加



照明用配線工事



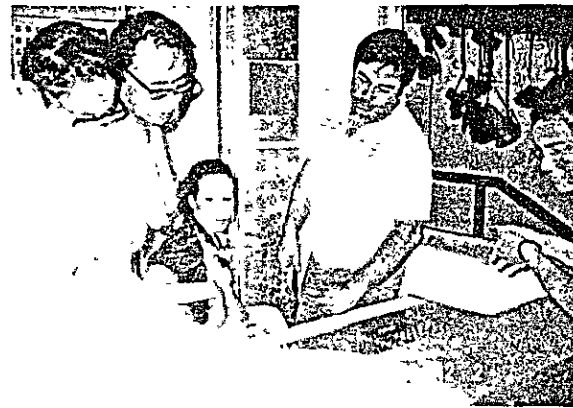
テレシネ装置



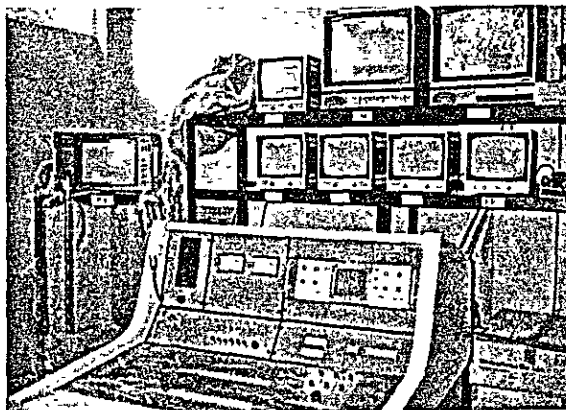
テレシネ装置を調整する勝原専門家(NEC)



照明設備の通電テスト



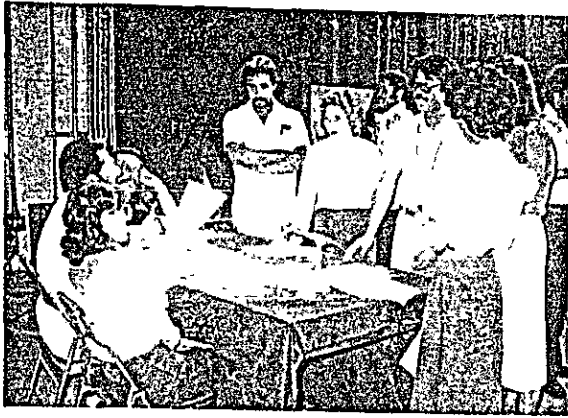
副調整室内の照明卓操作を説明する竹田専門家(RDS)



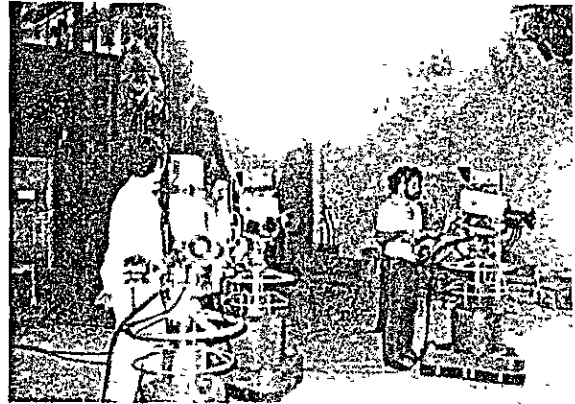
主調整室



副調整室(リハーサルを終わって本番前の打合せ)



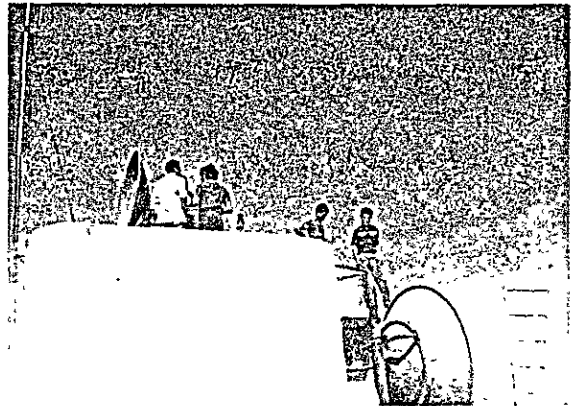
アナウンサー、プロデューサー、フロアディレクターに
本番直前の指示を与える相沢専門家



カメラ操作の訓練風景



FPU用パラボラの機構を解説する緒方専門家



パナマ大学屋上にFPU用パラボラ設置



アマドール海岸にEFP車出動
パナマ大学屋上へ伝送テスト
指導するのは富森専門家



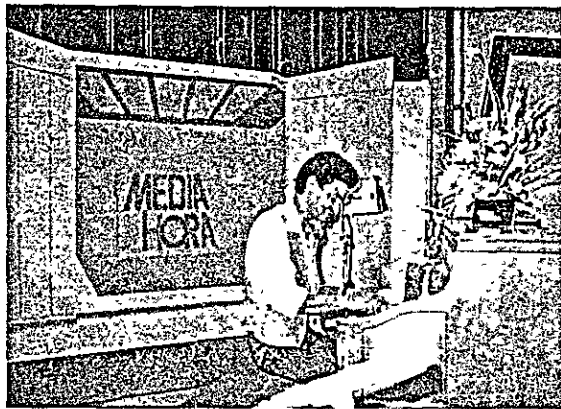
ロケーション現場でパナマ大学屋上に待機する緒方専門家
と交信する富森専門家



杉山専門家のテレビジョン美術講座
「タイトル・デザイン」



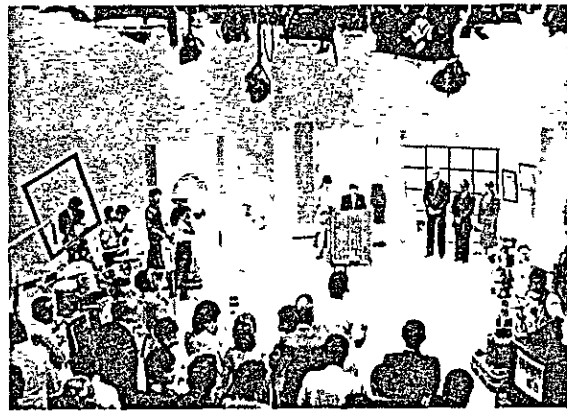
杉山専門家の指導で、人形劇セットの建込み完了。
小熊と小兔の人形（日本製）を操作する担当プロデューサー



背景のセットは杉山専門家の指導で製作したニュース番組
"MEDIA HORA"の固定セット

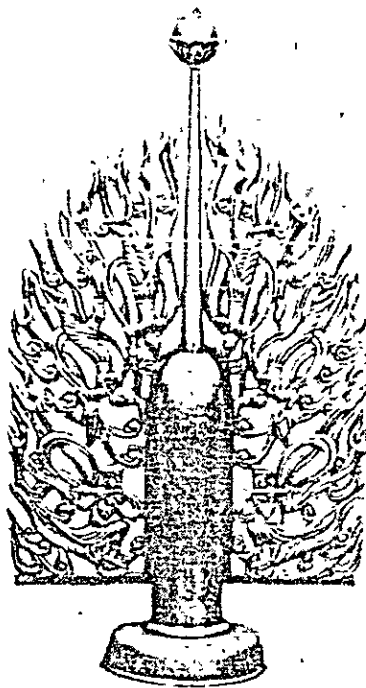


スタジオ開所式（58 12 15）のアトラクション、照明は
野尻専門家の指導でCANAL ONCEのスタッフが操作



スタジオ開所式（58 12. 15）における茂木大使の演説、大使
の右側、パナマ大学々長、文部次官、CANAL ONCE局長

**The 14th JAPAN PRIZE
Prize Awarding Ceremony**



**November 8, 1983
2:00p.m.-3:15p.m.**

NHK Broadcasting Center, Tokyo

Order of Ceremony

- Address:** Mr. Masato Kawahara
President of NHK
- Greeting:** H.I.H. the Crown Prince
- Greetings:** H.E. the Prime Minister
H.E. the Minister for Posts and Telecommunications
H.E. the Minister for Education
A Representative Observer
- Jury's Report:** President of the Jury
- Presentation of Prizes:** The Governor of Tokyo Metropolis Prize (Radio)
The Minister for Education Prize (Radio)
The Abe Prize (Television)
The Minister for Posts and Telecommunications Prize (Television)
The Japan Prize (Radio)
The Japan Prize (Television)
The Maeda Prize (Radio)
The UNICEF Prize (Television)
The Hoso Bunka Foundation Prize (Television)
The Special Prizes (Radio and Television)

TELEVISION:

The Japan Prize

"THE WORLD OF NUMBERS"

- Diameter and Circumference -

Japan Broadcasting Corporation (NHK)
JAPAN

Category: Primary
Language: English

Subject: Mathematics
Duration: 16'50"

A simple look into the mathematics of the circle, illustrated by animated figures. When the number of children holding hands in a circle is doubled or tripled, the diameter of the circle also doubles or triples accordingly. A demonstration then examines the relationship between circumference and diameter, introducing the concept of pi.

The Minister of Posts and Telecommunications Prize

"Landscape of Geometry: It's Rude to Point"

TVOntario (TVO), CANADA

Category: Secondary
Language: English

Subject: Mathematics
Duration: 14'25"

One of a series of programs illustrating concepts and geometry and their applications in the real world. In this segment, a ship's captain and an archer introduce the concepts of points, lines, rays, line segments, straightness, and angles, and demonstrate their importance in areas such as navigation and direction-finding, shooting, and optics.

The Abe Prize

"One More Day"

Shizuoka Telecasting Co., Ltd. (SUT)
JAPAN

Category: Adult
Language: English

Subject: Other
Duration: 54'00"

This is the documentary story of Mr. Ikuzo Amemiya, a terminal cancer patient at the Seirei Hospice, Japan's sole institution of this type. The program follows Mr. Amemiya through his daily activities, his relations with the staff and the other patients, and his confrontation with his own mortality. Evident throughout is the strong will of even terminal patients to survive, to live "One More Day".

Prize-Winning Programs

RADIO

The Japan Prize

"IN THE RESISTANCE (Adult)
Part 1: The Soviet Union"
Sender Freies Berlin (SFB)
FED. REP. OF GERMANY

The Minister of Education Prize

"All Ready to Go! School Field
ay (2)" (Primary)
Japan Broadcasting Corp. (NHK)
JAPAN

The Governor of Tokyo

Metropolis Prize

"William Hogarth and His Time"
(Secondary)
Swedish Educational Broad-
casting Co. (SR/UR), SWEDEN

The Special Prize (Primary)

"The Soup-Stone: Program No. 18"
Schools Broadcast Unit (S.B.U.)
FIJI

The Special Prize (Secondary)

"VIACOU MIS ATSI CCOS"
Cyprus Broadcasting Corp.
(CYBC), CYPRUS

The Special Prize (Adult)

"The Heart of Things"
Universidad Estatal a
Distancia (State Open
Univ.), COSTA RICA

The Maeda Prize (Secondary)

"There's Still Some Love
Somewhere"
The Finnish Broadcasting
Co. (YLE), FINLAND

TELEVISION

The Japan Prize

"THE WORLD OF NUMBERS" (Primary)
- Diameter and Circumference -
Japan Broadcasting Corp. (NHK)
JAPAN

The Minister of Posts and Communications Prize

"Landscape of Geometry: It's Rude
to Point" (Secondary)
TVOntario (TVO), CANADA

The Abe Prize

"One More Day" (Adult)
Shizuoka Telecasting Co., Ltd.
(SUT), JAPAN

The Special Prize (Primary)

"Learning Pinyin (1, 28, 47)
China Central Television (CCTV)
PEOPLE'S REPUBLIC OF CHINA

The Special Prize (Secondary)

"Ñandutí (Spider Web)"
Department Teleducation /
Ministry of Education
PARAGUAY

The Special Prize (Adult)

"The Olive Tree"
Radiodiffusion Télévision
Tunisienne (RTT), TUNISIA

The Hoso Bunka Foundation Prize

"Boxes, Boxes" (Primary)
The Instructional Television
Centre (ITC), ISRAEL

⊙ The UNICEF Prize (Adult)

"No More Sickle Cell Babies"
Canal Once Televisión
Educativa, PANAMA

受信者意向調査用紙

Estimado Televidente:

Canal Once, la única estación televisora gubernamental, desea brindar a la teleaudiencia los más variados programas educativos utilizando los recursos de nuestro nuevo estudio equipado con la más moderna maquinaria en televisión.

Para tal fin, vemos la necesidad de investigar las preferencias del televidente, a través de una encuesta. Nuestros futuros programas estarán basados en los resultados de esta encuesta.

Para que los mismos recojan la realidad de sus opiniones es necesario que:

- a- Contesten con sinceridad
- b- Que una sola persona responda por cuestionario

Esta encuesta será recogida unos días mas tarde después de aplicada esta encuesta.



Director General de
Canal Once.

Panamá, 4 de junio de 1987.

Las preguntas siguientes están dirigidas a conocer su opinión sobre la TV. Panameña en general.

1. Sobre sus temas de conversación quisiera saber:

1.- ¿Qué temas de conversación prefiere tratar con sus familiares y amigos? (Puede marcar varios).

- a) Moda
- b) Sobre el presupuesto del hogar
- c) De los parientes
- d) De deportes y pasatiempos
- e) De la salud
- f) Del Amor
- g) De su pueblo natal
- h) De las fiestas y actos tradicionales
- i) De los programas de televisión
- j) De los accidentes, robos y asesinatos
- k) De los problemas de la vejez
- l) De la alimentación y los recursos naturales de Panamá y el mundo.
- m) De la Guerra y la paz
- n) De arte en general
- ñ) No tiene respuesta adecuada

2.- De estos otros temas, cuáles prefiere tratar con sus familiares y amigos?

- a) De cocina y la alimentación del hogar
- b) De los problemas de vivienda
- c) Del vecindario
- d) Del estudio y del colegio
- e) Del trabajo y la oficina
- f) De la religión y la fé
- g) De la vida y de la manera de vida
- h) De viajes, paseos o vacaciones
- i) De las tradiciones de la sociedad
- j) De política
- k) De la contaminación del ambiente
- l) De los sucesos de otros países
- m) De economía y del alto costo de la vida
- n) No tiene respuesta adecuada

2. De la lista siguiente señale cuál de estos medios:
(Marque uno de cada pregunta).

	Periódicos	Revistas	Paquines	Libros	Radio	T.V.	Discos y Cintas	Cine y Teatro
Entretiene más								
Ofrece más tema de charlas								
Le es imprescindible en su vida diaria								

3. De la lista siguiente cuáles de estos medios contribuyen más a aumentar su cultura.

- Televisión
- Radio
- Periódico
- Revistas
- Libros
- Conversación con los familiares y amigos
- Cine, teatro, exposiciones, recitales de música etc.
- Otros medios
- No tengo interés en ninguno de ellos
- No sé.

4. Cuáles de los medios listados contribuyen para ampliar su conocimiento?

- Televisión
- Radio
- Periódico
- Revistas
- Libros
- Conversación con familiares y amigos
- Cine, teatro, exposición de pinturas, recitales de música etc.
- Otros
- No tengo interés en estas cosas.
- No sé.

5. De que hora a qué hora acostumbra usted a ver televisión?
(Marque la hora como el ejemplo).

^h 9 10 11 12 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12
 mañana tarde noche
 Horario habitual

^h 9 10 11 12 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12
 mañana tarde noche
 Horario habitual en sábado y domingo

^h 9 10 11 12 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12
 mañana tarde noche

6. Fuera de los días feriados: ¿Cuántas horas al día ve la televisión?

- | | |
|---------------|-----------------------|
| a) una hora | d) cuatro horas |
| b) dos horas | e) más de cinco horas |
| c) tres horas | f) no sé |

7. En días feriados cuántas horas al día ve televisión

- | | |
|---------------|-----------------------|
| a) una hora | d) cuatro horas |
| b) dos horas | e) cinco horas |
| c) tres horas | f) seis horas |
| | g) más de siete horas |
| | h) no sé |

8. ¿Qué lo motiva a prender la televisión?
(Elija una respuesta).

- Ya es costumbre tener prendida la televisión
- Cuando tengo algo especial que quiero ver
- Cuando no tengo nada que hacer
- Cuando estoy aburrido
- Cuando quiero cambiar de estado de ánimo
- Cuando mi familia la esté mirando
- Otros
- no sé

9. De qué manera le beneficia la televisión?
(Escoja una respuesta)
- a) Me sirve para progresar y ser culto
 - b) Para cambiar de ánimo, relajarme, divertirme.
 - c) Me entero de lo que ésta pasando en el mundo
 - d) No sé
10. Generalmente, qué tipo de programas ve con más frecuencia
(Puede marcar varios).
- a) Noticiero
 - b) Comerciales y avisos
 - c) Política, economía, temas sociales
 - d) Aficiones y pasatiempos
 - e) Programas culturales
 - f) Telenovelas
 - g) Documentales extranjeros
Folklore panameño y de otros países
 - h) Cines
 - i) Cartones y dibujos animados
 - j) Programas de entretenimiento
 - k) Programa de música popular
 - l) Programas deportivos
 - m) Programas de acción
 - n) Programa de entrevista y pánels
 - o) No aparece en la lista
11. Anote 3 de sus programas favoritos que se transmiten en cualquiera de las televisoras panameñas.
- | <u>Nombres de programas:</u> | <u>Canal</u> |
|------------------------------|--------------|
| 1. _____ | _____ |
| 2. _____ | _____ |
| 3. _____ | _____ |
12. Cómo sintoniza Ud. el programa que prefiere ver?
- a) Por el horario de la programación que aparece en el periódico
 - b) Por el anuncio en el periódico
 - c) TV Guías
 - d) Anuncios comerciales en la TV.

- e) Avances de programas en TV
 - f) Por medio de amigos y familiares
 - g) Ninguna de las anteriores
13. En Panamá se están televisando muchos programas extranjeros (Responda basada en la programación actual de nuestras televisoras)
- a) Son tan buenos programas que Ud. quisiera que se continuén importando mas programas extranjeros.
 - b) Los programas extranjeros son buenos pero se deben televisar mas programas nacionales.
 - c) Se necesitan más programas nacionales y se debe limitar los programas extranjeros.
 - d) Sólo se deben transmitir programas nacionales
 - e) No sé.
14. Usted ve más los programas extranjeros o los nacionales?
- a) Los que veo son casi todos extranjeros
 - b) Veo más programas extranjeros que nacionales.
 - c) Veo igual número de extranjeros que de nacionales.
 - d) Veo más programas extranjeros
 - e) Casi todos los programas que veo son nacionales.
15. Considera Ud. que la televisión panameña transmite contenidos útiles para la vida?
- a) Son muy útiles
 - b) Son útiles
 - c) Regularmente útiles
 - d) No son útiles
 - e) En absoluto útiles
 - f) No sé
16. De la lista siguiente escoja los temas que Ud. considera deben ser televisados para que sean útiles para la vida?
- a) Comentarios políticos
 - b) Ocupaciones laborales
 - c) Temas educativos
 - d) Orientación al consumidor
 - e) Asistencia médica, bienestar y seguridad social.
 - f) Problemas y alternativas de vivienda.
 - g) Problemas del tráfico vehicular
 - h) Temas industriales
 - i) Agricultura y pesca

- j) Temas locales
- k) De arte y cultura
- l) Temas extranjeros
- m) No está entre las preguntas
- n) No sé

17. Las preguntas siguientes están directamente relacionadas con Canal Once.

! Con qué frecuencia ve Canal Once?

- a) Casi todos los días
- b) De vez en cuando ve algún programa de Canal Once
- c) Muy rara vez sintoniza Canal Once
- d) Nunca sintoniza Canal Once
- e) No sé

8. Si Ud. marcó las preguntas e y d del número 17 responda:

Ud. no sintoniza Canal Once !Por qué?

- a) Considera que tiene programas interesantes pero prefiere otros canales.
- b) Considera que tiene programas interesantes pero la familia prefiere otros canales.
- c) No hay ningún programa que le guste
- d) No conoce su programación
- e) Porque repiten mucho los mismos programas
- f) No hay ningún programa que le interese
- g) No se ve bien la señal
- h) No le llega la señal
- i) Por otros motivos

9. Si Ud. marcó la opinión a y b de la pregunta 17 responda:

Ud. sintoniza canal once porque?

- a) Porque tiene programas fijos para ver
- b) Porque generalmente emiten programas interesantes
- c) Lo sintonizo de casualidad y me mantengo en sintonía si transmiten algún programa interesante.
- d) Cuando no hay nada que ver en otros canales sintonizo Canal Once.
- e) Veo Canal Once cuando mi familia lo sintoniza.
- f) No hay ninguna regla
- g) Otras respuestas
- a) Porque no tiene comerciales

20. Considera Ud. que Canal Once promociona adecuadamente su programación diaria?
- a) Si tiene una adecuada promoción
 - b) Tiene una divulgación regular
 - c) No tiene una divulgación adecuada
 - d) No divulga su programación
 - e) No sé

21. Recientemente entre los programas transmitidos de Canal Once cuáles son los más interesantes para Ud.

A- Programas extranjeros

- a) Cine
- b) Drama
- c) Documental
- d) Presentación de culturas y costumbres
- e) Musicales
- f) Dibujos animados para niños
- g) Títeres para niños

B- Producción local de Canal Once

- a) Documental
- b) Entretenimiento
- c) De bienestar social
- d) Folklore
- e) Leyendas
- f) Historia
- g) No sé

Mencione algún programa que le haya interesado

22. Qué piensa Usted de Canal Once como estación de televisión educativa?

A-

- a) Por el contenido de sus programas es una televisión educativa.
- b) Por el contenido de sus programas es casi televisión educativa.
- c) Por el contenido de sus programas no es muy educativa.

- d) Por el contenido de sus programas no es nada educativo
- e) No sé

B- Qué piensa Usted sobre los programas de Canal Once.

- a) Está transmitiendo muchos programas educativos.
- b) No transmite muchos programas educativos
- c) Está transmitiendo muy pocos programas educativos
- d) No transmite programas educativos
- e) No sé

23 Los programas educativos que Canal Once está transmitiendo son los que Usted desea ver?

- a) En su mayoría
- b) Algunos .
- c) Está transmitiendo pocos programas educativos que yo...
- d) No transmite ninguno
- e) No sé

24 Cuáles son los programas educativos que Usted espera ver por Canal Once? (Puede marcar varios)

- a) Folklore
- b) Cultura general
- c) Entretenimiento o Orientación técnica o Profesional
- d) Aficiones y pasatiempos
- e) Clases de idiomas extranjeros
- f) Estudios primarios y secundarios
- g) Clases para Universitarios
- h) Presentación de conocimientos útiles de la vida
- i) Documental que se toma como tema, político, económico o social
- j) Comentario sobre medicina o bienestar social
- k) Documental extranjero
- l) Dibujos animados
- m) Programa infantil
- n) Música clásica
- o) Música popular
- p) Programas deportivos
- q) Telenovela drama
- r) Telecine
- s) Pregunte y respuesta
- t) Noticiero
- u) Entretenimiento
- v) Ninguna de las anteriores

5. Escoja de la lista anterior 3 programas educativos que le parezcan importantes a los panameños para el desarrollo general del país.

1. _____
2. _____
3. _____

6. Le interesan a Usted los programas educativos?

- a) Tengo mucho interés
- b) Tengo poco interés
- c) No tengo ningún interés
- d) No sé

7. Si la programación de Canal Once transmitiera los programas educativos que Usted desea, lo sintonizaría. (Escoja 1 respuesta de cada columna).

- | | |
|---------------------------------|---|
| a) Posiblemente lo sintonizaría | a) Les haría ver a mis hijos |
| b) Lo sintonizaría | b) Les diré a los niños que vean |
| c) Lo sintonizaría a veces | c) Lo sintonizaría si mis hijos desean verlo. |
| d) No lo sintonizaría | |
| e) No sé | |

8. Para que Canal Once contribuya al desarrollo cultural del país, Usted considera que debe emitir programas con contenidos basados en: (Elija solo 2 temas)

- | | |
|----------------|---|
| a) Historia | f) Geografía |
| b) Castellano | g) Física |
| c) Matemáticas | h) Moral |
| d) Cívica | i) Música |
| e) Ciencias | j) Trabajo manual, dibujo, pintura, artes en general. |

9. De la lista siguiente: -Cuál considera Usted que contribuye en el área de deficiencia cultural en el panameño.

- | | |
|----------------|---|
| a) Historia | f) Geografía |
| b) Castellano | g) Física |
| c) Matemáticas | h) Moral |
| d) Cívica | i) Música |
| e) Ciencias | j) Trabajo manual, dibujo, pintura, artes en general. |

30. Muchísimas gracias por su cooperación
aquí una última pregunta sobre Usted?

SEXO	EDAD	PROFESION	ESUD.GRADUADO	TIPO DE TV.
Hombre		1. Estudiante	1. Escuela secundaria	1. A colores
Mujer		2. Empleado público	2. Universidad	2. Blanco y negro
		3. Empleado de empresas privadas	3. Escuela para graduados	
		4. Trabajos libres		
		5. Otro trabajos		

JICA